

高知県中村市

国見遺跡

1994. 3

中村市教育委員会



国見遺跡航空写真（西より）



II区 住居跡 S T 1（東より）

序

国見遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、中村市立東中筋中学校移転改築工事に伴う調査として実施したものです。

この遺跡は、本市在住の考古学者木村剛朗氏によって発見された中筋川流域遺跡群の中でも希少な縄文時代中・後期の遺跡として知られ、これまで木村氏によって縄文土器、石錘、剥片等が発見されております。

本書は、発掘調査の成果をまとめたものであります。調査にあたりましては、高知県教育委員会なかでも埋蔵文化財センターのご指導、ご援助を、また、本市文化財保護審議会等関係機関、地元関係者の皆さんにはご理解、ご協力をいただき、特に調査を担当された埋蔵文化財センターの曾我貴行調査員は献身的なお取組みをされ、予定期間内に発掘調査を完了することができました。衷心より厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本調査書が広くご活用いただき、学術・文化の向上に資することを期待し刊行のご挨拶といたします。

平成6年3月31日

中村市教育委員会

教育長 山 中 俊 三

例　　言

1. 本書は中村市立東中筋中学校建設工事に伴う、国見遺跡の発掘調査報告書である。
2. 国見遺跡の所在地は高知県中村市国見字ダバである。
3. 調査対象面積は約11,000m²であり、発掘調査面積は1,495m²である。調査期間は平成5年5月11日～9月2日である。
4. 発掘調査及び整理作業は、中村市教育委員会が実施し、曾我貴行（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター・調査員）がこれを担当した。調査事務は、安田稻三（中村市教育委員会社会教育課社会教育振興係長）が行った。
5. 本書の執筆、編集は曾我が行った。
6. 遺構については、それぞれST（堅穴住居跡）、SB（掘立柱建物跡）、SK（土坑状遺構）、SX（集石遺構）、P（ピット状遺構）等の略号で表記し、遺構番号はそれぞれの通し番号である。
7. 出土遺物の縮尺は1/3を基本とし、これに若干1/1（石器・臼玉）、1/4（石器・土器の大形の個体）が混じる。図版及び挿図中の番号は、実測図の番号と一致している。
8. 図1は国土地理院1:25,000地形図「土佐中村」・「有岡」を複写して使用した。
9. 遺構測量ならびに遺物の取り上げは任意座標で行い、挿図中の標高は海拔高を示す。
10. 発掘調査及び報告書作成に際しては、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター、高知県教育委員会の諸氏から御助言・御協力を頂き、また以下の方々から貴重な御助言・御教示を賜わった。記して衷心より謝意を表したい。
高橋 譲（ノートルダム清心女子大学）・木村剛朗（中村市文化財保護審議会委員・日本考古学協会員）・犬飼徹夫（日本考古学協会員）・溝垣大洗（高知大学）
11. 発掘調査・遺物整理・報告書作成等の作業においては、次の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。
小野由香　岡本順恵　山本裕美子　山中美代子　橋田美紀
宮地佐枝　竹村延子　矢野 雅　松木 富子　吉本睦子
12. 調査に当たっては、地元関係者をはじめ数多くの方々の御協力を頂いた。また、発掘作業においては、国見地区を中心とする中村市の方々の協力を得ることができた。以下に御芳名を記し、厚くお礼申し上げたい。
桑原 定　岡本 芳子　中山 昭子　大原千代枝　岡本 隆江　上田 豊子
平地八重喜　西 獣　岡崎美代子　下村 国子　長崎 竹美
13. 遺跡の略号は「93-4KN」とし、出土遺物の注記等にはこれを使用した。
14. 出土遺物等は中村市教育委員会で保管している。
15. 出土遺物の色調については「新版標準土色帖1991年版」の名称を使用した。

報告書要約

1. 遺跡名 国見遺跡 遺跡番号 070068
2. 所在地 高知県中村市国見字ダバ
3. 立地 中筋川左岸の低丘陵上 標高 7m
4. 種類 縄文時代～近世（集落跡）
5. 調査主体 高知県中村市教育委員会
6. 調査契機 学校建設
7. 調査期間 平成5年5月11日～9月2日
8. 調査面積 1,495m²
9. 検出遺構 [縄文時代] SX2基、SK1基、P
[弥生時代] ST1棟、SK1基、P
[古墳時代] SK1基
[近世] SB5棟、SA1条、P
[時期不明] P多数
10. 出土遺物 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、青磁、備前焼、近世陶磁器、石鐵、石錘、石斧、叩石、磨石、砥石、剝片、碎片、臼玉、石臼
11. 内容要約 国見遺跡は縄文時代早期～中世の遺跡として広く知られている。今次調査では縄文時代から近世に亘る遺構・遺物を確認することができた。中でも、縄文時代の遺物包含層からまとまって出土した縄文中期土器（船元式他）、及び縄文後期土器（平城式他）は、当該期の研究において重要な意義をもつ好資料である。また、幡多地方で初検出の弥生前期の竪穴住居跡は、その一括資料とともに当地域の研究に果たす役割は非常に大きいものと考えられる。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過.....	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境.....	2
第Ⅲ章 調査の概要.....	4
第Ⅳ章 I 区の調査成果	
1. I 区の概要.....	5
2. 層序.....	5
3. 出土遺物.....	6
第Ⅴ章 II 区の調査成果	
1. II 区の概要.....	7
2. 層序.....	7
3. 検出の遺構・遺物.....	9
第Ⅵ章 III 区の調査成果	
1. III 区の概要.....	19
2. 層序.....	19
3. 検出の遺構・遺物.....	19
第Ⅶ章 IV 区の調査成果	
1. IV 区の概要.....	32
2. 層序.....	32
3. 検出の遺構・遺物.....	32
第Ⅷ章 総括.....	38

挿 図 目 次

図1	国見遺跡と周辺の遺跡・位置図	3
図2	周辺の地形と調査区の配置図	4
図3	I 区全体図・土層断面図	5
図4	I 区出土遺物実測図	6
図5	II 区全体図	8
図6	II 区土層断面図	9
図7	II 区 S X 1・2、S K 1・2	10
図8	II 区出土遺物分布図	11
図9	II 区出土遺物（縄文土器）実測図・1	13
図10	II 区出土遺物（縄文土器）実測図・2	14
図11	II 区出土遺物（縄文土器）実測図・3	15
図12	II 区出土遺物（石器）実測図・1	16
図13	II 区出土遺物（石器）実測図・2	17
図14	II 区出土遺物実測図	18
図15	III 区全体図	20
図16	III 区土層断面図	21
図17	III 区出土遺物（縄文土器）実測図・1	22
図18	III 区出土遺物（縄文土器）実測図・2	23
図19	III 区 S T 1	24
図20	III 区出土遺物（弥生土器）実測図・1	25
図21	III 区出土遺物（弥生土器）実測図・2	26
図22	III 区出土遺物（弥生土器）実測図・3	27
図23	III 区出土遺物（弥生土器）実測図・4	28
図24	III 区 S K 1・S B 1・S A 1	29
図25	III 区出土遺物実測図	30
図26	III 区出土遺物（石器）実測図	31
図27	IV 区全体図	33
図28	IV 区土層断面図	34
図29	IV 区 S B 1・2	34
図30	IV 区 S B 3・4	36
図31	IV 区出土遺物実測図	37

表 目 次

表1 国見遺跡と周辺の遺跡一覧表	2
表2 遺物観察表1	40
表3 遺物観察表2	41
表4 遺物観察表3	42
表5 遺物観察表4	43
表6 遺物観察表5	44
表7 遺物観察表6	45
表8 遺物観察表7	46
表9 遺物観察表8	47

図 版 目 次

P.L. 1	国見遺跡遠景・近景
P.L. 2	国見遺跡近景
P.L. 3	I区調査前近景・I区調査風景
P.L. 4	I区東壁土層断面・I区IV層土師器出土状態
P.L. 5	II区調査前近景・II区遺構検出状態
P.L. 6	II区西壁土層断面・II区北壁土層断面
P.L. 7	II区集石遺構検出状態・II区集石遺構S X 2 検出状態
P.L. 8	II区土坑状遺構SK 1 遺物出土状態・II区III b層叩石出土状態
P.L. 9	II区III b層繩文土器出土状態
P.L. 10	III区及び掘立柱建物跡S B 1 完掘状態・III区及び住居跡S T 1 完掘状態
P.L. 11	III区住居跡S T 1 検出状態・III区住居跡S T 1 遺物出土状態
P.L. 12	III区住居跡S T 1 弥生土器出土状態・III区土坑状遺構SK 1 堆積土層断面
P.L. 13	IV区完掘状態・IV区掘立柱建物跡S B 2 完掘状態
P.L. 14	IV区掘立柱建物跡S B 3・4 検出状態・完掘状態
P.L. 15	出土遺物
P.L. 16	出土遺物
P.L. 17	出土遺物
P.L. 18	出土遺物
P.L. 19	出土遺物
P.L. 20	出土遺物

第Ⅰ章 調査に至る経過

国見遺跡は、四万十川支流の中筋川左岸に所在する縄文時代～中世の遺跡である。この遺跡は昭和41年、中村市在住の木村剛朗氏が実施した探索調査によって発見された。木村氏によって採集された遺物は、縄文土器（中期・後期）・石鎚・剣片・弥生土器・土師器等であった。これらの資料は同氏によって公表され、中でも縄文時代中・後期の遺物は注目を集め、中筋川流域には希少な縄文時代中・後期遺跡として広く知られるところとなっている。

国見遺跡の所在する低丘陵が、中村市立東中筋中学校の建設用地候補として浮上してきたのは平成4年4月のことである。東中筋中学校は国見遺跡から直線距離で300mという近接した位置にあり、またその校舎は老朽化が進んでいるため、以前から立て替え、移転が強く要望されていたところであった。

この学校建設計画が浮上して以来、学校建設担当部局である中村市教育委員会学校管理課と文化財保護部局との間で、埋蔵文化財保護に関する調整を図ってきたが、平成4年暮、建設用地の変更は不可能となり、記録保存は止むを得ないという結論に達した。直ちに学校管理課と財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターとの間で遺跡の範囲・性格・深度・遺存状態等の把握を目的とした確認調査の委託契約が締結され、平成5年1月に同センターが調査を実施した。その結果、約2,000 m² の範囲に縄文時代～近世の遺跡が遺存し、この範囲に関しては事前の緊急発掘調査が必要と判断された。

以上の経緯に基づいて、今次調査の運びとなった。発掘調査は中村市教育委員会が実施し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが職員を派遣して現地調査を指導した。発掘調査期間は平成5年5月11日～9月2日である。また発掘調査面積は、工法等との調整によってその影響を受けない部分を対象から除外した結果、1,495 m² であった。

第II章 遺跡の位置と環境

国見遺跡は、高知県西南部の中村市国見にある。中村市は高知県の西部を流れる四万十川の下流域にあり、四万十川はここから海へと注いでいる。国見遺跡は、四万十川支流の中筋川左岸の、川に面した低丘陵上に立地しており、中村市市街地の西郊約5kmにある。

中村市に所在する遺跡は、高知県教育委員会が実施した詳細分布調査によると、その数およそ200箇所といわれる。遺跡の分布は、大きく分けて四万十川・後川・中筋川の3河川流域にその集中をみることができる。以下、国見遺跡の所在する中筋川流域を中心に周辺の遺跡について概観したい。

縄文時代では、中・後期の国見遺跡、後期の船戸遺跡、晩期のツグロ橋下遺跡等が知られ、具同中山遺跡群でも晩期の遺物が出土している。また、四万十川流域の中村貝塚・入田の両遺跡は、晩期の遺跡としてよく知られるところである。

弥生時代では、前期の国見遺跡、江ノ村遺跡、後期の具同中山遺跡群等が知られるが、明確な集落跡の確認には至っていない。

古墳時代では、具同中山遺跡群、船戸遺跡、具重遺跡等、一連の祭祀遺跡が存在し、特徴的な祭祀遺跡集中地域を形成する。また、中筋川上流域には高岡山1・2号古墳、平田曾我山古墳、神ヶ谷古墳等の古墳が知られるが、その殆どは現存しない。

古代では、風指遺跡、具同中山遺跡群等があり、官衙的性格も考えられている。

中世では、具同中山遺跡群の集落・墓地跡が代表的である。戦国期では、流域に50箇所を超す山城跡が知られており、中筋地溝帯をめぐる勢力抗争の跡を伝えている。また、当時権勢を振るったとされる香山寺跡も中筋川を見渡す位置に存在している。

表1 国見遺跡と周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	国見遺跡	縄文～近世	12	小才田遺跡	中世	23	田黒遺跡	中世
2	東中筋小学校延遺跡	古墳	13	小才田城跡	"	24	香山寺跡	中世・近世
3	間城跡	中世	14	楠島城跡	"	25	具重遺跡	古墳
4	間遺跡	"	15	楠島西城跡	"	26	アゾノ遺跡	中世
5	江ノ村本村遺跡	"	16	相ノ沢城跡	"	27	風指遺跡	弥生・平安・中世
6	江ノ古城跡	"	17	近沢城跡	"	28	船戸遺跡	古墳
7	荒川遺跡	"	18	具同中山遺跡群	縄文～中世	29	森沢北ノ城跡	中世
8	国見西ノ城跡	"	19	西和田遺跡	弥生	30	森沢城跡	"
9	国見南沖屋敷遺跡	"	20	栗本城跡	中世	31	ミヤゾエ遺跡	平安・中世
10	国見城跡	"	21	扇城跡	"	32	コヲヤバタ遺跡	"
11	大才田城跡	"	22	ナリカド城跡	"	33	浅村遺跡	中世

(表中のNo.は図1中の数字に対応する)

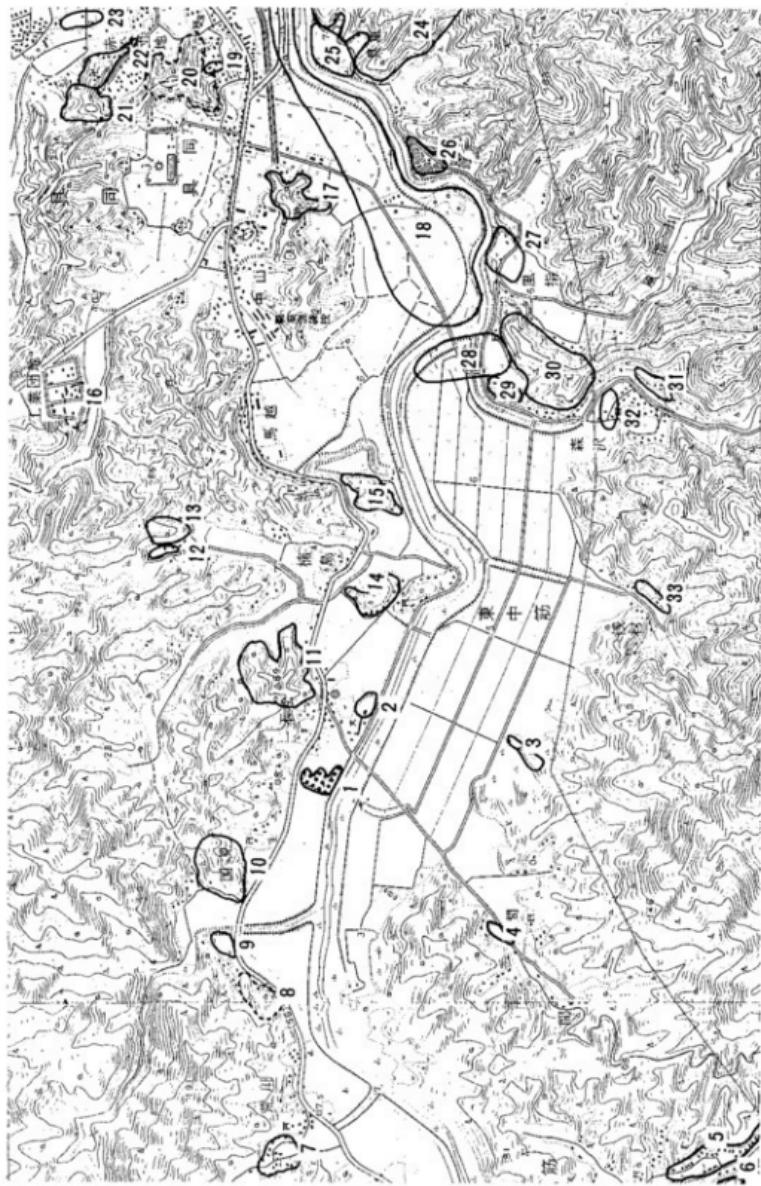


図1 国見遺跡と周辺の遺跡・位置図 ($S = 1 : 25,000$)

第三章 調査の概要

1. 調査の方法

平成4年度の確認調査に基づいて設定した今次の調査対象範囲は、4面の田畠にまたがり、それぞれ相互に0.6~2mの段差をもっていたため、一面の調査区として扱うよりもそれぞれの単位ごとに調査を進めた方が適当と判断した。従って、調査順にそれぞれI区~IV区の名称を付して呼び分けることとし、本文の記述も各区ごとにおこなうこととする。なお、各調査区の面積はそれぞれ、I区: 70m², II区: 369m², III区: 335m², IV区: 721m²であり、発掘調査面積の合計は1,495m²である。

調査対象地の表土及び無遺物層は、重機（ユンボ）を使用して除去し、遺物包含層の掘り下げ、遺構検出、及び遺構の掘り下げは人力によっておこなった。また、重要と考えられた堆積土については、フルイ選別もしくは水洗選別を実施し、微細な遺物の取り上げに努めた。

遺構実測及び遺物の取り上げについては、II~IV区の長軸方向に平行する任意の座標軸を設け、一辺4mの区画（グリッド）を最小単位として実施した。なお、任意座標のX軸は、磁北方向から東に30°57'の角度をなす。

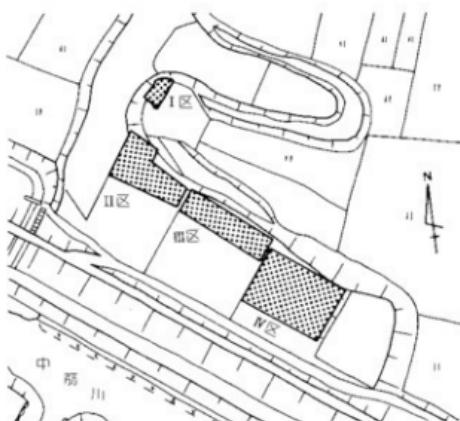


図2 周辺の地形と調査区の配置図(S=1:2,000)

第Ⅳ章 I 区の調査

1. I 区の概要

今次調査で最初に着手した調査区であり、調査区全体の中では北西部に位置する。国見遺跡の立地する低丘陵が枝状に入り組んだ谷部に相当し、平面形は不整合形で、面積70m²の調査区である。原地形はこの調査区から東に向かって徐々に傾斜しており、地下水位の高い後背湿地状をなす。

2. 層序(図3)

調査によって確認された基本層序は、第I層：褐色土(表土)、第II層：褐色土、第III層：暗褐色土、第IV層：黄褐色粘質土、第V層：黒色土、第VI層：黒色粘砂土、第VII層：灰色礫、第VIII層：明灰色粘礫土、第IX層：黄褐色混土礫(岩盤)である。各層間には漸移層的なもの、部分的なもの等が數種類認められ、それらには基本となる層名にアルファベットの小文字を付けて表記した。

これらの中で第IV層・第V層が遺物包含層であり、第IV層から土師器・須恵器が、第V層か

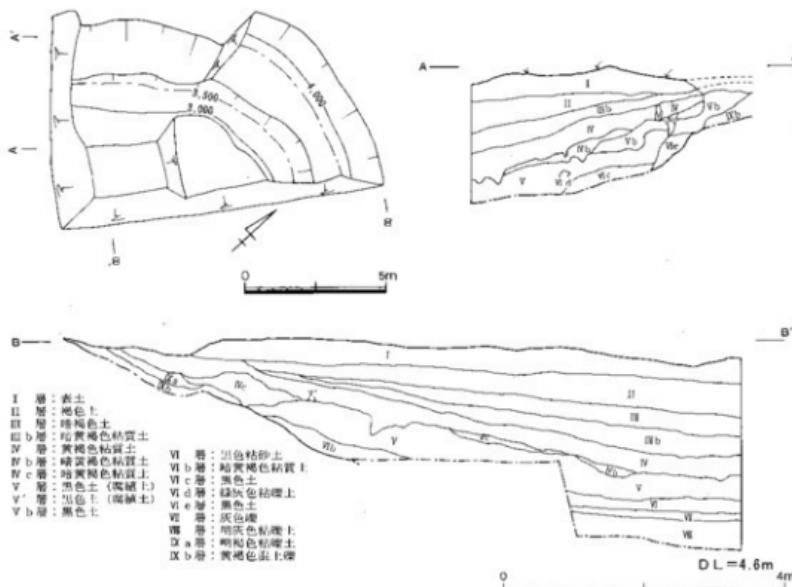


図3 I 区全体図・土層断面図

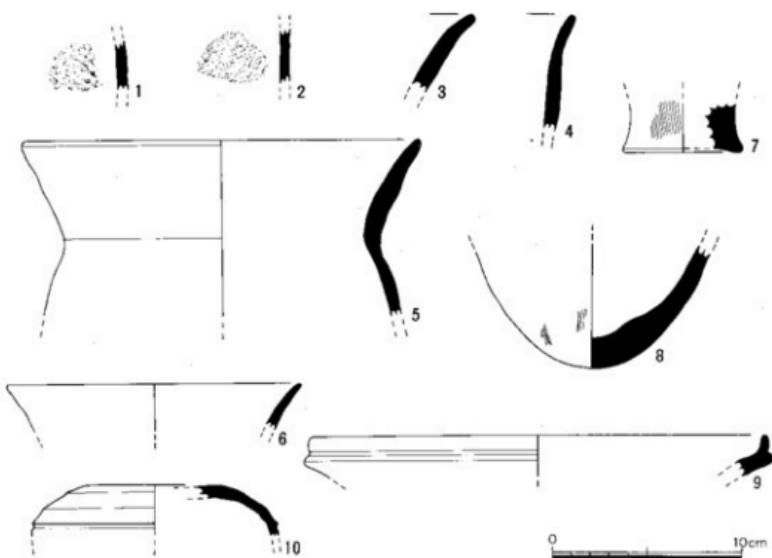


図4 I区出土遺物実測図

ら縄文土器・弥生土器・土師器が、それぞれ出土した。細片も含めた出土遺物の総数は135点である。これによると、第IV層は古墳時代から平安時代頃までに、第V層は古墳時代までに、それぞれ形成された遺物包含層とみることができる。

3. 出土遺物（図4）

I区では遺構は認められなかった。遺物は第IV層・第V層から縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器等が出土している。

1・2は縄文土器で、第V層出土。いずれも胴部片で、1は楕円押型文の可能性がある。2は硬い繊維の無節縄文を施し、胎土の特徴からも、中期の所産と考えられる。7は第V層出土の弥生土器で、底部片と考えられるが器種は不明。3～6・8・9は土師器で、いずれも第IV層出土。4～6・8・9は甕、3は器種不明。9は古代の土師器、他は古墳時代の土師器とみられる。10は須恵器で、第IV層出土。环蓋で、天井部との境の稜はやや鈍く、直下に沈線を施す。

第V章 II区の調査

1. II区の概要

I区の南側に当たる調査区であり、調査区全体の中では西部に位置する。国見遺跡の立地する低丘陵先端部分の西端に相当し、平面形は東西に長い鉤形を呈する、面積369m²の調査区である。当初、東西に長い四角形の調査区を設定していたが、北西隅部分での遺物包含層の遺存状況を重視して北方に拡張し、このような平面形となった。

原地形は、I区の所在する谷部に向かって南から北へと全体に緩く傾斜している。なお、調査前の現況は水田でほぼ平坦であったが、調査してみると西端部には遺物包含層・遺構面の遺存が良好な一方で、東方にいくほどその遺存状態は悪く、地山の上部層にまで削平が及んでいることが観察された。従って、旧来の地形は東から西に向けての緩い傾斜を有していたことが推察される。

2. 層序（図6）

調査によって確認された基本層序は、第Ⅰ層：耕作土、第Ⅱ層：明褐色粘質土・褐灰色土（客土）、第Ⅲ層：灰色土（旧耕作土）、第Ⅲ b層：黒色土、第Ⅳ層：黄褐色粘質土である。第Ⅲ層と第Ⅲ b層の間には、2枚の間層が認められ、第Ⅲ層下層A・第Ⅲ層下層Bという意味でそれぞれⅢ下A層・Ⅲ下B層と呼称した。第Ⅳ層上面には部分的に火山灰（アカホヤ？）の堆積が認められた。第Ⅳ層は漸移的に岩盤層へと移行している。なお、第Ⅲ b層はII区の西北部にのみ確認できるもので、Ⅲ下A・Ⅲ下Bの両層も同様である。II区の中央部以東ではこれらの層は削平・擾乱により全く観察されない。

上記の層の中で第Ⅲ b層がほぼ純粋な縄文時代後期までの遺物包含層であり、縄文中期土器・後期土器及び石器が出土した。第Ⅲ・Ⅲ下A・Ⅲ下Bの各層からは縄文土器と弥生土器・土師器等が混在した状態で出土した。遺構は第Ⅳ層上面で検出作業を行なったが、Ⅲ b層中から掘り込まれたものの存在も十分に考えられる。また若干であるが、第Ⅳ層上面からも縄文土器が出土している。

ここで、Ⅲ b層として取り上げた遺物の内容について付記しておきたい。第Ⅲ層と第Ⅲ b層が元來同一層であり、耕作に伴う擾乱の有無によって明確に分層されることは、確認調査時の所見によって知られていた。よって当初から両層の層位的発掘に努めたが、調査区を北方に拡張する段階に至って初めて、この2層間にⅢ下A層・Ⅲ下B層という2枚の間層が存在することに気づいた。従って、拡張部分に関してはこの4枚の土層の層位的な発掘が実施できたが、それ以前に掘り下げた部分の層位的発掘には失敗しており、Ⅲ b層として取り上げたものの中には、明らかにⅢ下A層・Ⅲ下B層から出土したものが含まれている。拡張部分とそれ以外の調査区とではⅢ b層の位置付けが異なることを明記しておく。

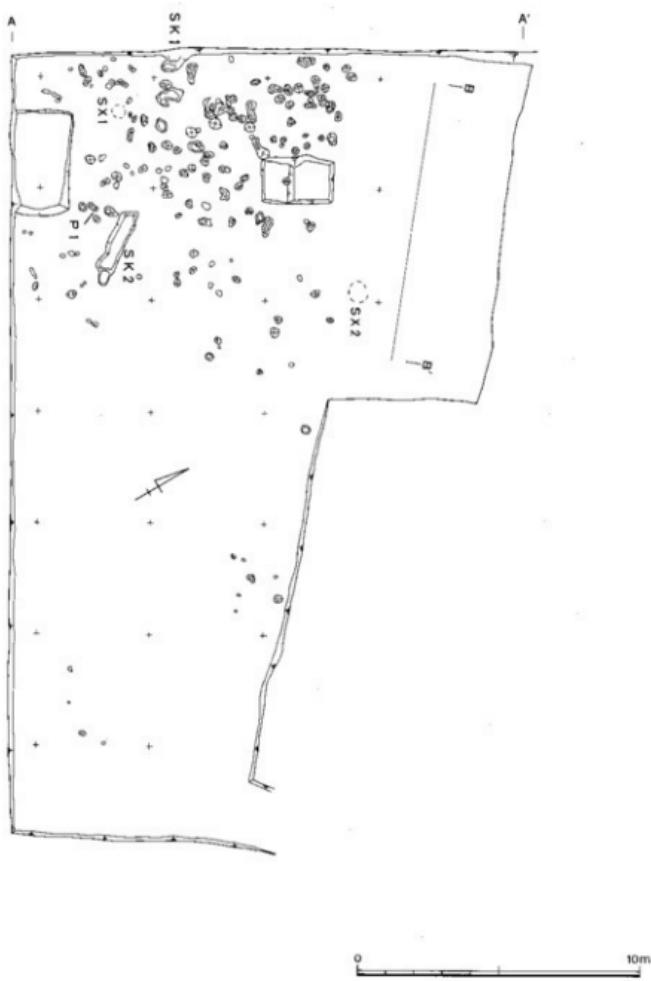


図5 II区 全体図

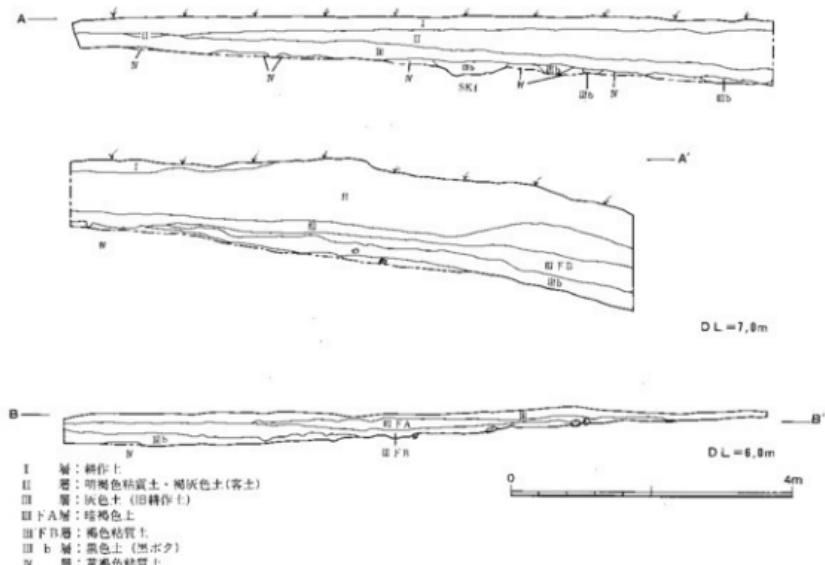


図6 II区 土層断面図

3. 検出の遺構・遺物

II区では第IV層上面で集石遺構・土坑状遺構2基・ピット状遺構100基余りの遺構を検出した。出土遺物は、遺構及び各層から縄文中期土器・後期土器、石器類、土師器、臼玉等が認められた。以下、遺構とその出土遺物、そして各層出土の遺物の順で記述する。

(1) 遺構

検出できた遺構の中で、集石遺構2基、土坑状遺構2基について記述する。集石遺構は8×4m程度の広い範囲に亘るもの1箇所と、直径50cm程度の小単位数箇所が認められたが、ここでは比較的単位の明瞭なもの2基を取り上げた。またここで取り上げなかったピット状遺構については、殆ど遺物を伴わない時期不明なもの、また攪乱等の原因によるものが多いことを付け加えておきたい。

① 集石遺構 SX1 (図7)

調査区の南西部、SK2の西方に位置する。平面形はほぼ円形を呈し、長径44cm、短径32cmを測る。中央部分の標高は6.502mである。構成礫は20個で、円礫が多い。熱によって表面の劣化したものを含む。遺構に伴う出土遺物はみられない。縄文時代の遺構と考えられる。

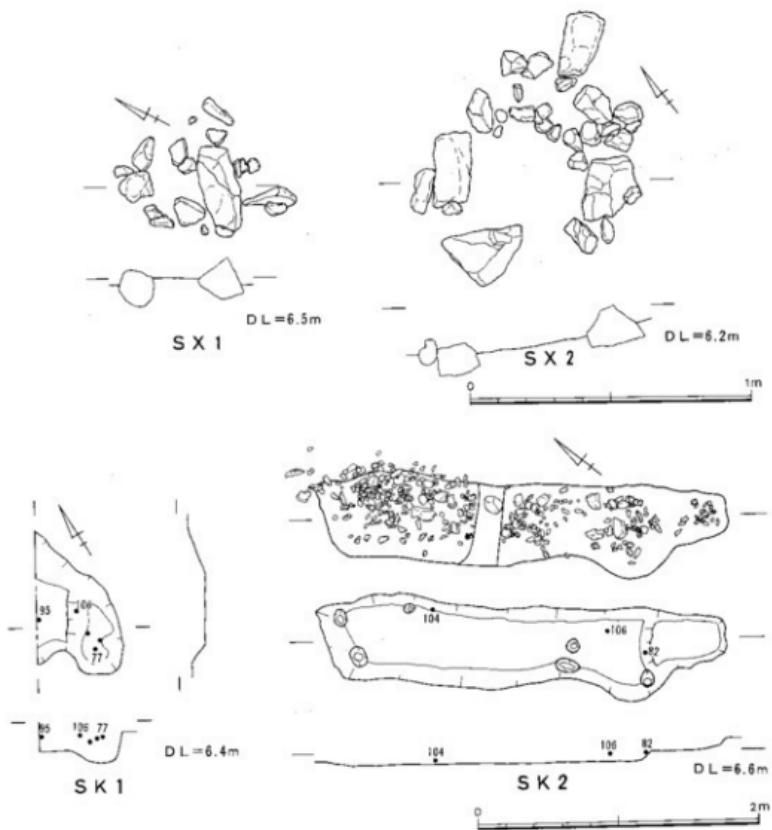


図7 SX1・2, SK1・2

②集石遺構SX2(図7)

調査区の北部、拡張部分の東半部に位置する。平面形はほぼ円形を呈し、長径87cm、短径71cmを測る。中央部分の標高は6.054mである。構成礫は30個であり、円礫が多い。また、赤変・劣化したものが多い。遺構に伴う出土遺物はみられない。縄文時代の遺構と考えられる。

③土坑状遺構SK1(図7)

調査区の西端部、西壁に接する位置にあり、更に調査区外に延びている。掘り方の平面形は不整形で、長軸方向の最大長1.16m、短軸方向の最大長0.70m、検出面からの深さは23cmを測る。掘り方の断面形態は東側が一段深い段状を呈し、長軸方向はN-2°6' - Eを示す。埋

鉛直方向は $S = 1/40$

$D L = 6.0m$

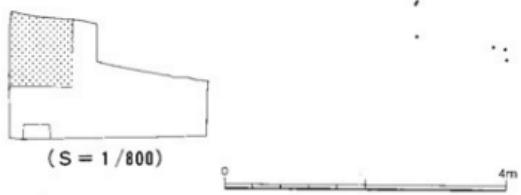


図8 II区 出土遺物分布図

土は黒色土単純一層である。遺物は縄文中期土器・後期土器である。縄文時代後期の遺構と考えられる。

S K 1 出土遺物 (図10-77・95)

77は無文土器の口縁部である。95は縄文地に沈線を施す胴部片である。

④土坑状遺構 S K 2 (図7)

調査区の南西部、S X 1 の東方に位置する。掘り方の平面形は不整の長方形を呈し、長軸長2.92m、短軸長0.68m、検出面からの深さは17cmを測る。掘り方の断面形態は東端部が一段浅い段状を呈し、長軸方向はN-36° 12' -Wを示す。埋土は灰黒色土で、径20cm以下の礫を多量に含む集石土坑である。遺物は縄文中期土器・後期土器・白玉である。古墳時代の遺構と考えられる。

S K 2 出土遺物 (図10-82、図11-104・106、図12-122)

82は平底の底部片。104・106は外面に沈線を施す胴部片で、106は沈線間に爪形の刻み目が付く。122は滑石製の白玉である。

(2)遺物

II 区では第Ⅲ b 層を中心に、第Ⅲ層・Ⅲ下A層・Ⅲ下B層から遺物が検出された。遺物は細片が多数を占めるが、その殆どは縄文中期土器・後期土器であり、これに石器類、若干の土師器が加わる。また少量ではあるが、第Ⅰ層・Ⅱ層からも縄文土器が出土している。Ⅲ b 層を中心とした遺物の分布状態は図8に挙げたとおりである。分布範囲は第Ⅲ b 層の遺存する北東部分に限られ、しかも北方の斜面付近にやや偏る様相が看取される。縄文中期土器と後期土器は層位的な上下関係を保って出土する訳ではなく、同一層中に混在している。従って中期の遺物包含層が後期に生活面として「搅乱」を受けたものと理解されよう。よって後期の包含層に中期の遺物が混入しているということになろうか。

ここでは、第Ⅲ b 層出土遺物を中心として縄文中期土器・縄文後期土器・石器類・土師器という各器種別にその内容を記述することとする。

①縄文中期土器 (図9・10)

中期に分類できるものとして73点を挙げた。

11~44は有文の器種である。11~13は外面に二枚貝の圧痕文を施すもので、同一個体の可能性がある。12は第Ⅲ層出土。14・15も外面に隆帯を貼付し、二枚貝の圧痕文を施すが、無節縄文Rを地文としており、胎土・色調等も11~13とは明らかに異なる。16~22は外面に隆帯を貼付する一群で、17~20は竹管の刺突をその上下に施す。19は第Ⅲ層出土。23・30・34は外面に、24は内面に沈線を施す。23は第Ⅲ層出土、24は表採。25~27は口縁端部外面に沈線を横走させる口縁部片である。25は第Ⅲ下B層出土。28は屈曲部外面に沈線を描き、29は口縁端部外面に斜位の短沈線を施し、後期の可能性もある。31~33・35~37は楕円ないし米粒状の刺突を面的に施すもので、擬似縄文かと考えられる。38~41は口縁部直下外面に隆帯を貼付し、

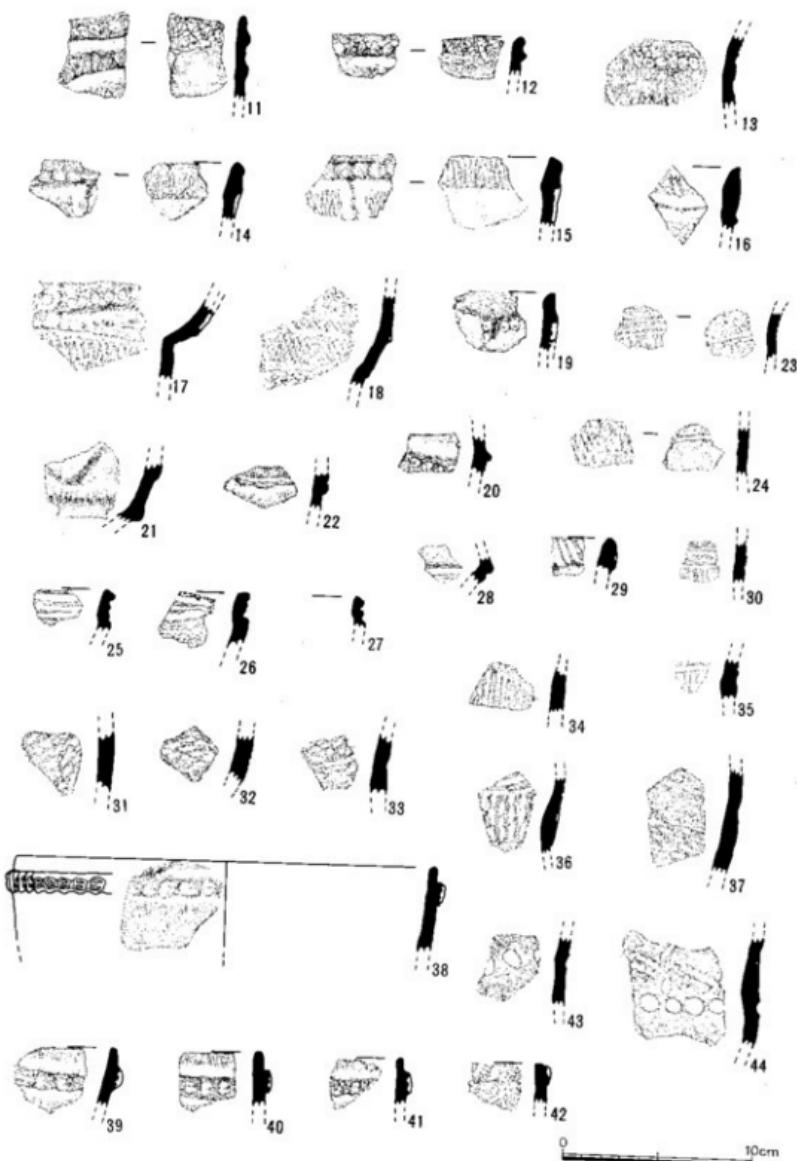


図9 II区 出土遺物（縄文土器）実測図・1

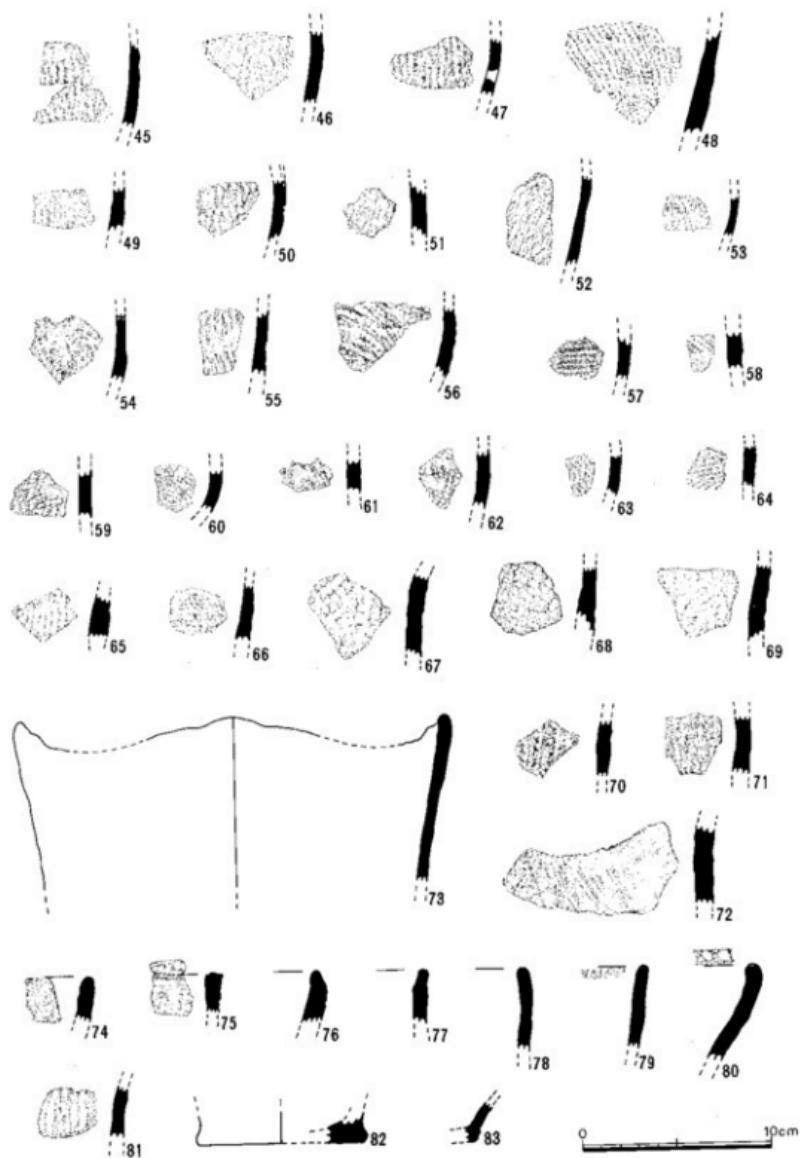


図10 II区 出土遺物(縄文土器)実測図・2

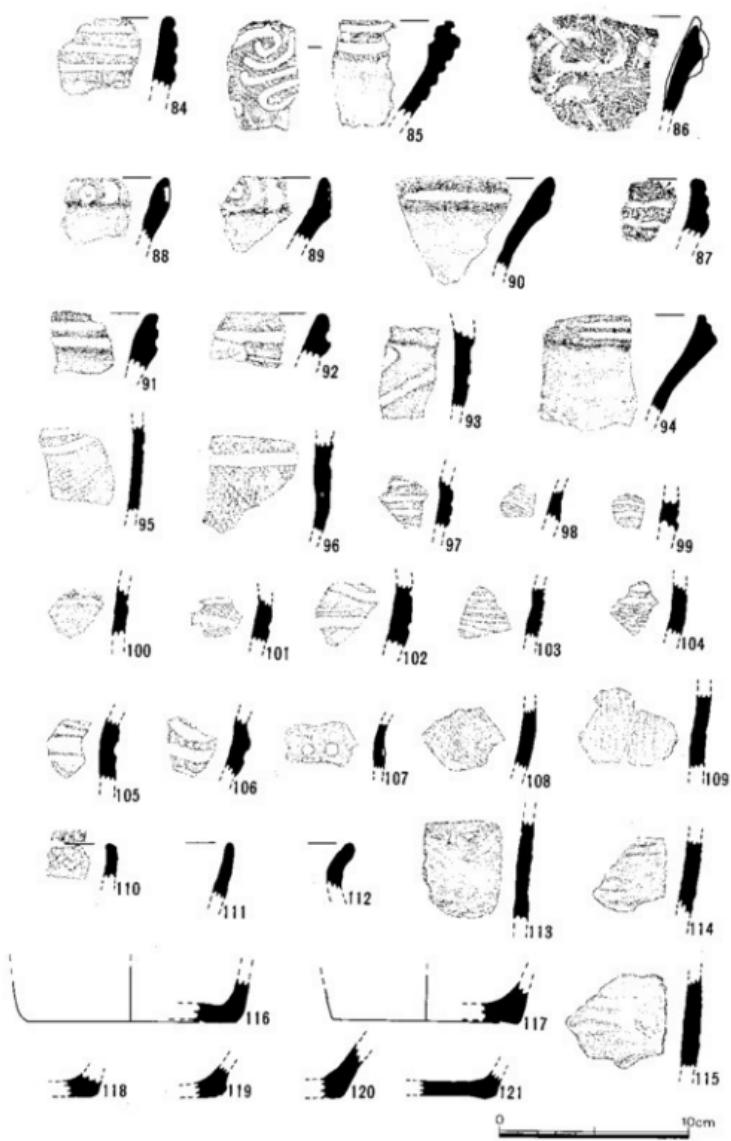


図11 II区 出土遺物(縄文土器)実測図・3

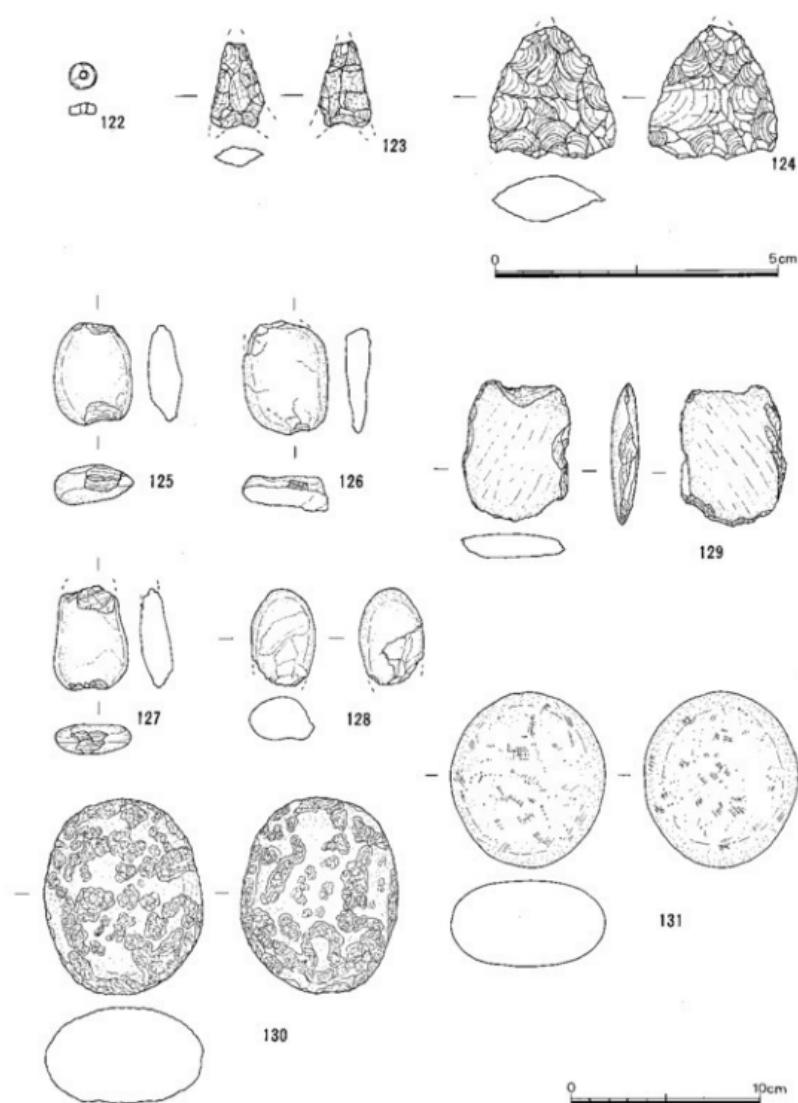


図12 II区 出土遺物(石器)実測図・1

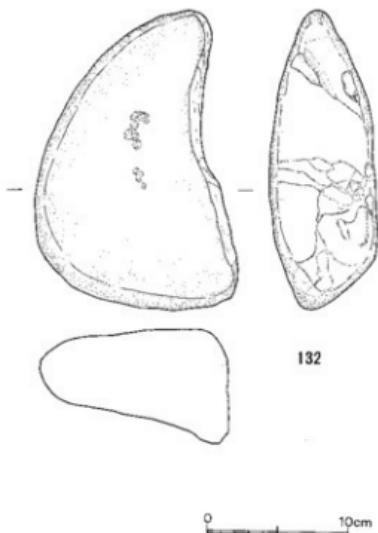


図13 II区出土遺物(石器)実測図・2
性がある。79・80は口縁端部に刻目を施す。74は第Ⅲ層出土、76は第Ⅲ下B層出土、81は第Ⅱ層出土。

83は底部片である。

②縄文後期土器(図11)

後期に分類できるものとして38点を挙げた。

84~94・96~103・105・107・109・110は有文の器種である。84は外面に平行沈線3条以上を施す口縁部片である。85は外面の縄文地に沈線文を描き、それが口縁部内面にまで及んでいるもので、文様部分には赤彩が施される。86~92は口縁部外面に文様帯を有するもので、86は波状口縁の波頂部に沈線が巻き付いて渦巻き状をなし、88・89は竹管刺突とその両側にC字状の短沈線、87・90~92は口縁に平行な沈線をそれぞれ施す。86・87は確認調査の試掘坑T P11第Ⅲ層出土、88は第Ⅲ層出土、89・93は表採。94も口縁部外面に文様帯を有し、沈線2条を横走させるものであるが、口縁端部の形状・沈線の特徴等の点で前出のものとはやや異質である。100は第Ⅲ層出土。101・102は内面にミガキ調整を施す。102・103は磨消縄文。101・105は第Ⅲ下B層出土、103はP1出土。107は外面に円形刺突を施す。107は第Ⅳ層出土。

108は外面に縄文を施す。

111~115は無文土器である。111は内湾、112は外湾の口縁部片。112は表採。113は内

隆帶上に横2列単位の刺突を連続的に施す。42は口縁端部外面に肥厚帯を有し、その上面に横2列単位の刺突を施す。42は第Ⅲ層出土。43・44は巻貝の刺突文を施したもので、縄文前期の可能性もある。43は表採、44は第Ⅲ層出土。

45~72は縄文を施す器種である。45~55・63・64は無節縄文、59~62・70~72は燃糸文である。67~69は粗い原体の縄文で、やや異質である。燃りの方向は、無節縄文ではL:R=4:9、単節縄文ではRL:L R=5:3、燃糸文ではR:L=4:3の割合でそれぞれ存在している。49は第Ⅱ層出土、57は第Ⅰ層出土、59・63は第Ⅲ層出土。

73~76・78~81は無文土器である。73は緩い波状口縁をなすもので、78と同一個体の可能性がある。75は口縁端面に縄文原体の圧痕がみられるもので、外面にも縄文が施されていた可能性がある。79・80は口縁端部に刻目を施す。74は第Ⅲ層出土、76は第Ⅲ下B層出土、81は第Ⅱ層出土。

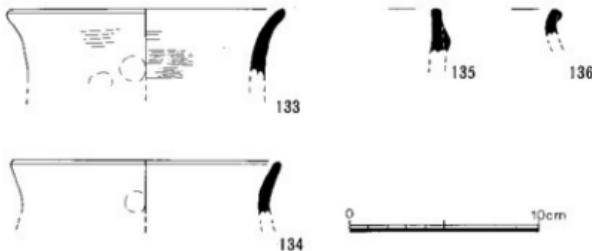


図14 II区 遺物実測図

面に条痕調整を施し、114・115は外面にその可能性がある。115は第III層出土。

116～121は底部片である。116・117・121は若干の上げ底を呈す。118は第III層出土、120は第III下B層出土。

③石器（図12-123～131・図13）

石器類は10点が出土している。

123・124は石鐵で、いずれも姫島産黒曜石製で、一部破損している。123は凹基で鋭い二等辺三角形状を呈し、重量は3.5 gである。124はほぼ正三角形を呈し、基部は平基ないし円基に分類され、肉厚で、重量は3.3 gである。123は第III層出土。

125～127は石錘である。いずれも円錐の長軸の両端部を打ち欠いたもので、砂岩製。126・127は一部欠損している。重量は、125が52.4 g、126が47.4 g、127が47.6 gである。

128・132は加工ある円錐で、128は破損している。いずれも砂岩製で、研磨痕が観察されるが用途は不明。重量は128が40.2 g、132が2500 gである。

129は完形の打製石斧で、頁岩製である。刃部には細かな剝離がみられる。重量は77.8 gである。129は表採。

130は叩石で、砂岩製である。全面に敲打痕がみられ、一部に摩滅痕もみられることがある。磨石としても使用された可能性がある。重量は640 gである。

131は磨石で、花崗岩製である。擦痕は全面に顕著である。重量は500 gである。

④土師器（図14）

第III下B層から出土した土師器片4点を図示した。

133・134は甕の口縁部片。135・136も口縁部片とみられるが、器種は不明。

第VI章 III区の調査

1. III区の概要

今次調査区全体の中で、ほぼ中央に位置する調査区である。平面形は東西に長い長方形を呈し、面積は335m²である。

原地形は北方の谷部に向かって傾斜していたものと考えられるが、耕作等に伴いかつての丘陵頂部は削平されているため、北端部に至って遺構面（岩盤層上部）は急激な落ち込みを見せる。削平は非常に著しく、調査区の殆どの範囲は耕作土の直下が遺構面という状況であった。

2. 層序（図16）

調査によって確認された基本層序は、第Ⅰ層：耕作土、第Ⅱ層：明褐色粘質土（客土）、第Ⅲd層：黒灰色土、第Ⅳ層：橙色粘質土である。第Ⅱ層と色調・土質の異なる客土層が第Ⅲd層との間に4種類あり、これらはⅡにアルファベットの小文字を付して表示した。第Ⅲd層は近世以降の旧耕作土であり、陶磁器に混じて縄文土器・弥生土器等が出土した。また第Ⅲd層とは異なる旧水田耕作土が部分的に存在し、第Ⅲc層と呼称した。第Ⅳ層は漸移的に岩盤層へと移行している。なお、第Ⅱ層・第Ⅲd層はIII区の北端部付近にのみ確認できるもので、これ以外の範囲では前述のとおり、人為的な地形の平坦化によって耕作土層の直下が第Ⅳ層となっている。

上記の層の中で遺物包含層と呼び分けられるものは存在しないが、擾乱層ながら、第Ⅲd層から縄文中期土器・後期土器、弥生土器、土師器、青磁等が出土した。第Ⅲd層はかつての縄文時代遺物包含層（II区の第Ⅲb層に相当）であった可能性が考えられる。また若干であるが第Ⅰ層・第Ⅱ層からも縄文土器等の遺物が出土している。

3. 検出の遺構・遺物

III区では第Ⅳ層上面で竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟、土坑状遺構1基、ピット列1条、ピット状遺構24基の各遺構を検出した。出土遺物は、竪穴住居跡出土の弥生土器をはじめとして、各遺構及び各層から縄文中期土器・後期土器、弥生土器、土師器、須恵器、青磁、備前焼、石器類等が認められた。

以下、縄文土器、各遺構とその出土遺物、そして縄文土器以外の遺物の順で記述する。

(1)縄文土器（図17・18）

III区では第Ⅲd層を中心に、第Ⅰ層・第Ⅱ層及び竪穴住居跡S T 1をはじめとする遺構から縄文中期土器・後期土器が検出された。ここでは遺構出土のものも含めて、縄文中期土器・後

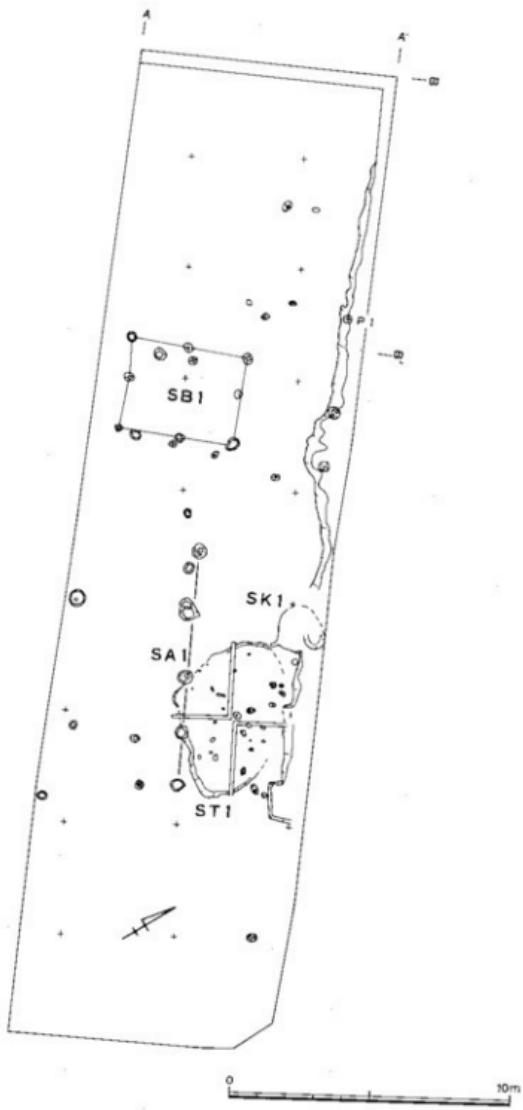


図15 III区 全体図

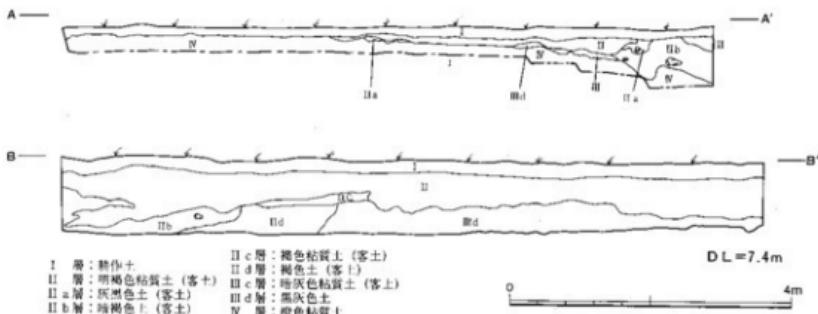


図16 III区 土層断面図

期土器に分けて記述することとする。

①縄文中期土器（図17）

中期に分類できるものとして10点を挙げた。

137～142・145・146は有文の器種である。137は波状口縁で、外面に押し引きの沈線文を描く口縁部片である。137・139は無節縄文が施される。138は外面に隆帯を貼付し、その上面に刻目を施す口縁部片である。137～139はST1出土。140は口縁部内面に斜位の列点状の刺突文を施す。141は外面に沈線を描き、142は無節縄文地に浅い円形の刺突を施す。141はSK1出土、142は第II層出土。145・146は巻貝の刺突文を施すもので、前期の可能性がある。146はP1出土。

143は燃糸文を施す胸部片である。144は底部片で、底面に縄文が観察される。144は第I層出土。

②縄文後期土器（図18）

後期に分類できるものとして23点を挙げた。

147～165は有文の器種である。147～155は口縁部外面に文様帶を有する。147・148・151は竹管刺突とその両側にC字状の短沈線を施す文様集約部片で、149・152～154は沈線1条を横走させる。152は第II層出土、153はSB1-P2出土、154は表採。150は波状口縁の波頂部片で、端部外面に竹管の刺突とその周囲に縱位・横位の沈線を描く。155は口縁端部外面に沈線1条を横走させ、その直下に「U」字状の沈線を描き、沈線内に刺突?を施す。155はST1出土。158～163は外面の縄文地に沈線を施す。157・158は第II層出土。165は外面に竹管の刺突を施す。

166・167は無文の口縁部片。167は第I層出土。

168・169は無文の底部片。169は第I層出土。

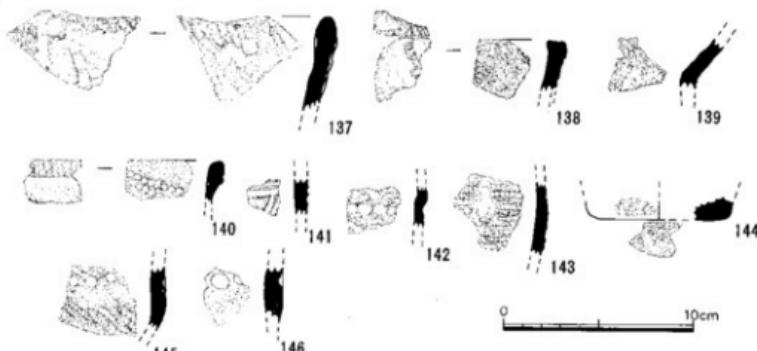


図17 III区出土遺物(縄文土器)実測図・1

(2) 遺構

検出できた遺構の中で、竪穴住居跡1棟、土坑状遺構1基、掘立柱建物跡1棟、ピット列1条について記述する。

① 竪穴住居跡 S T 1 (図19)

調査区の東半部、土坑状遺構SK1の南東に位置し、ピット列SA1に切られる。平面形は不整の楕円形を呈し、長径5.96m、短径3.96m、検出面からの深さは17cmを測る。掘り方の断面形態は薄い凸レンズ状を呈し、長軸方向はN-38°12' - Wを示す。埋土は黒色土単純一層で、遺構上面の攪乱を受けた部分には暗黄褐色土が堆積していた。

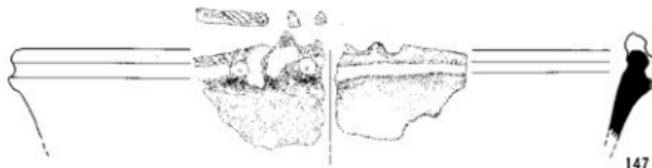
床面上で28個のピット状遺構を検出した。ピット状遺構の規模は、径7~26cm、床面からの深さ3~33cmで、主柱穴に当たるものはみられず、主柱穴によらない上屋構造を考えなければならない。

遺物は弥生前期土器483点、混入の縄文土器27点、礫87点で、弥生時代前期の遺構と考えられる。

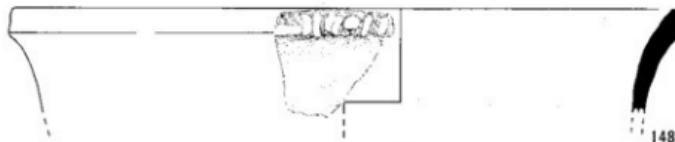
S T 1 出土遺物 (図20-170~180、図21-181~191・193・196・198、図22-199~212、214~219、図23-221~226)

170~180は壺と考えられる。170・171は頸部外面で1段をなし、170は内外面にミガキ調整を施す。172は胴部片で、外面に断面三角形の細い突帯2条を貼付する。173・176・177は上胴部片で、横位の平行沈線間に山形あるいは縦位のヘラ描きを施す。174・175は胴部片で、外面に列点状の刺突文を施す。178・179は底部片である。180は大型の個体で、口縁直下外面に2本単位の沈線2段を描き、その間に竹管の刺突を施す。

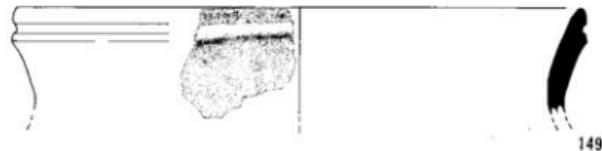
181~220は甕と考えられる。181は内傾する口縁部の外面に断面三角形の突帯が付くもので、内面は細かいミガキ調整である。搬入品と考えられる。184は口縁直下外面に列点状の



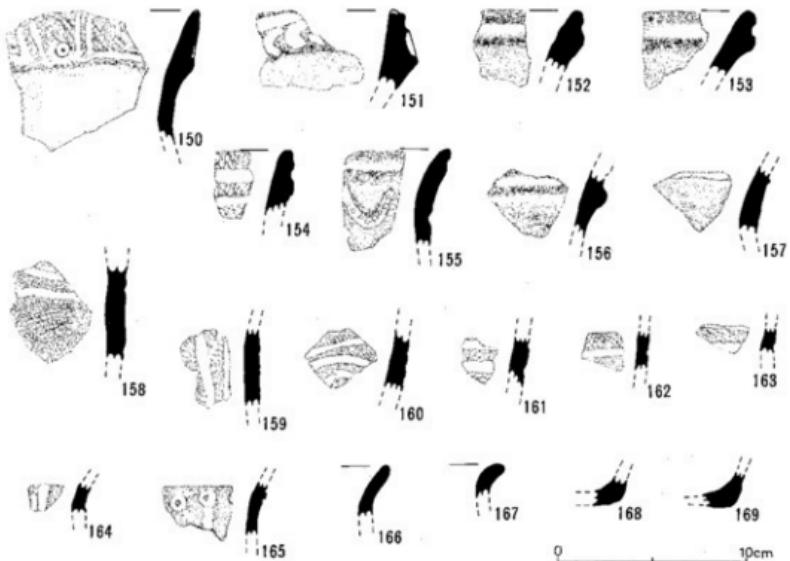
147



148



149



0 10cm

図18 III区 出土遺物（縄文土器）実測図・2

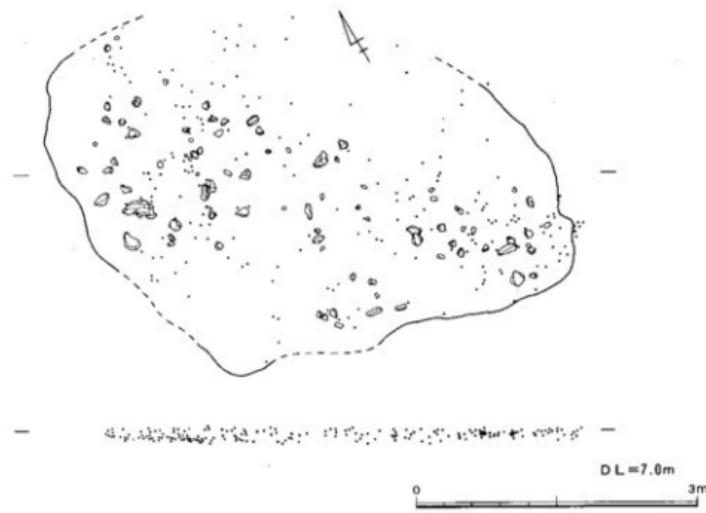
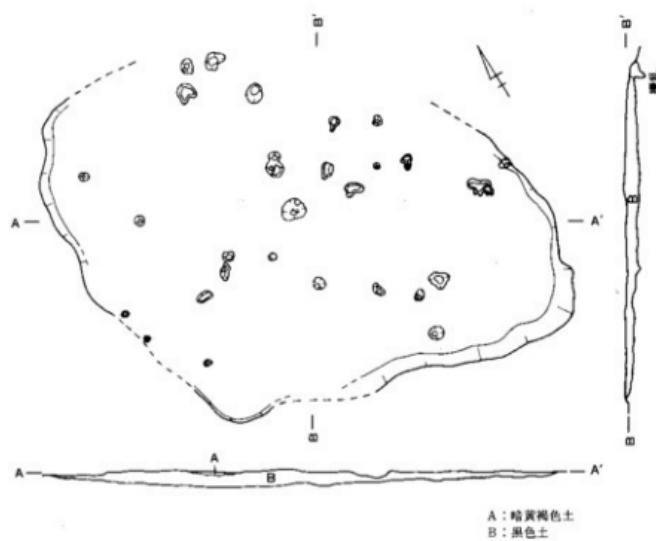


图19 III区 ST1

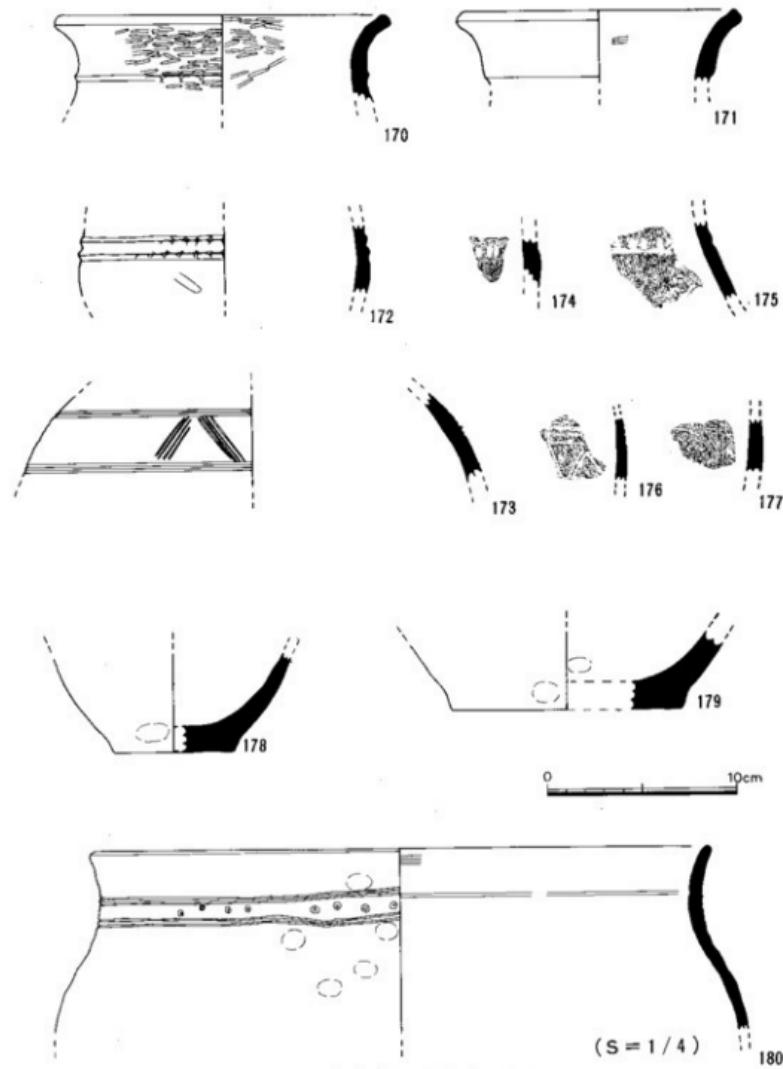


図20 III区 出土遺物(弥生土器) 実測図・1

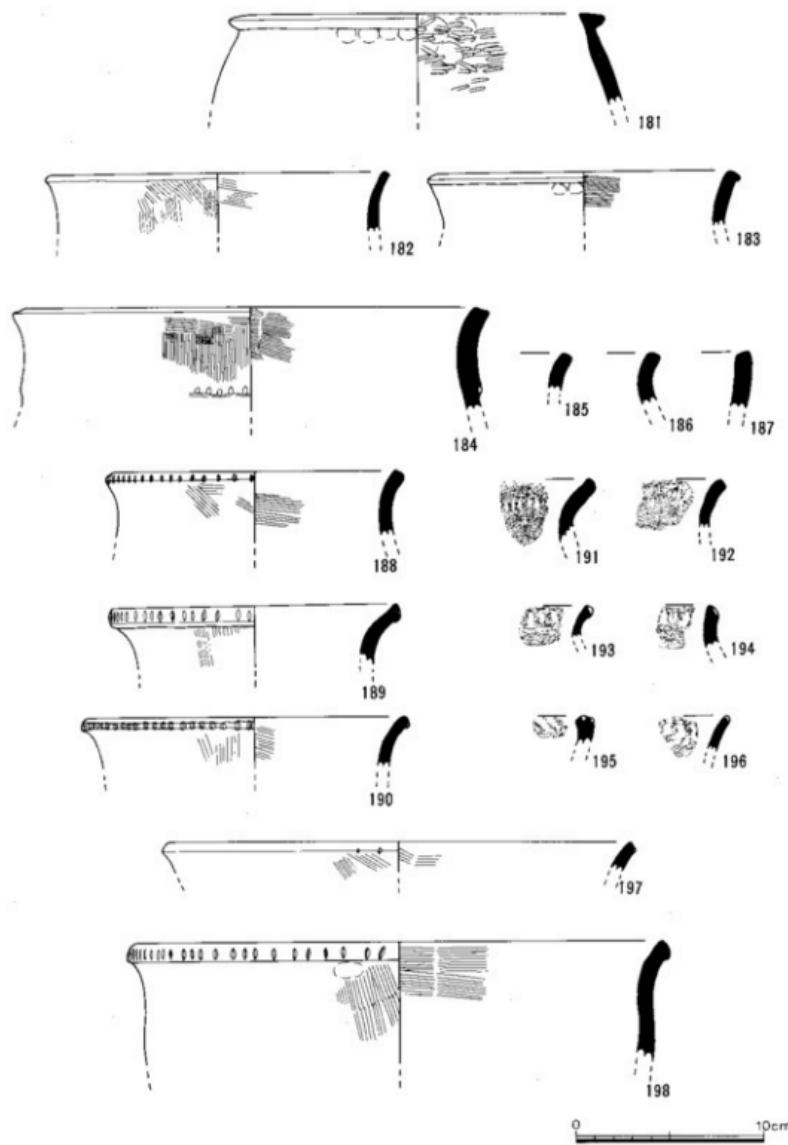


図21 III区 出土遺物(弥生土器)実測図・2

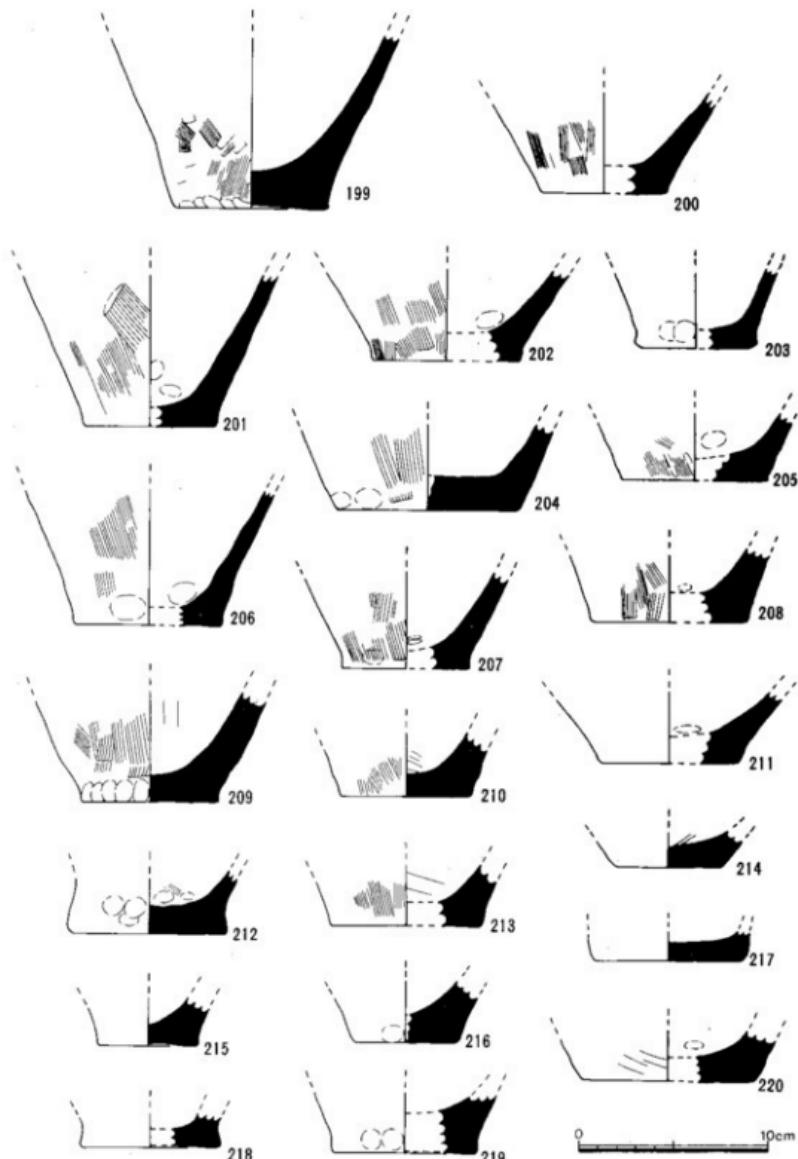


図22 III区 出土遺物（縄文土器）実測図・3

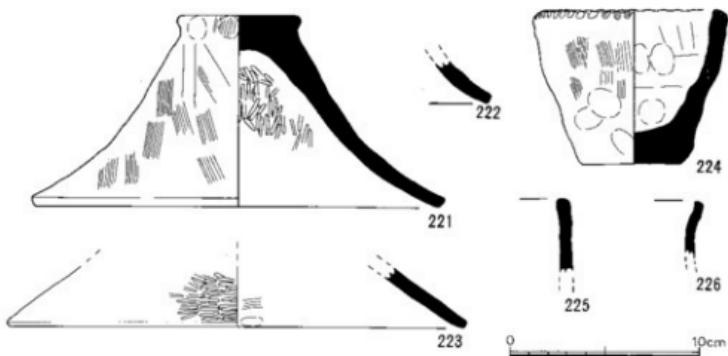


図23 III区 出土遺物(弥生土器)実測図・4

刺突を施す。188～198は口縁端部外面に刻目をもつものである。199～220は底部片である。

221～223は蓋で、いずれもミガキ調整で仕上げられる。224は小型の鉢で、口縁端部外面に刻目が付けられる。225・226は口縁部片で器種は不明。

②土坑状遺構SK1(図24)

調査区の中央部北端、ST1の北西にあり、北西部は搅乱を受けている。掘り方の平面形はほぼ円形とみられ、径1.7m、検出面からの深さは52cmを測る。掘り方の断面形態は南半部で見る限り底に向かって広がるフラスコ状を呈し、北半部は一段低く、浅いピット状を呈する。埋土は上から順に、A：暗褐色土、B：灰黒色土、C：褐色混礫土である。

遺物は縄文土器、弥生土器がみられるが細片が殆どで、図示できたのは縄文土器1点(図17-141)のみである。弥生時代の遺構と考えられる。

③掘立柱建物跡SB1(図24)

調査区の西半部で検出した桁行2間(4.08～4.22m)、梁間2間(3.14～3.32m)の南北棟の掘立柱建物跡である。棟方向はN-41°42' -Eを示す。柱間距離は桁行が1.90～2.19m、梁間が1.35～1.90mである。柱穴の平面形は円形ないし不整形で、径23～44cm、検出面からの深さ7.7～36.7cmを測り、遺構の遺存状態は比較的良好である。柱穴底面の標高は6.620～6.946mを測り、西面の桁の柱穴は掘り方が深い。埋土は明褐色粘質土のブロックを含む灰褐色土である。

遺物はP2から縄文土器・弥生土器、P3から不明の鉄製品が出土しているが、細片が殆どで、図示できたのは縄文土器1点(図18-153)のみである。

④ピット列SA1(図24)

調査区の東半部に位置し、ST1を切る。ピット状遺構5基からなるピット列で、列の方向はN-57°12' -Wを示す。柱間距離は1.87～2.54mである。柱穴の平面形は円形ないし不整

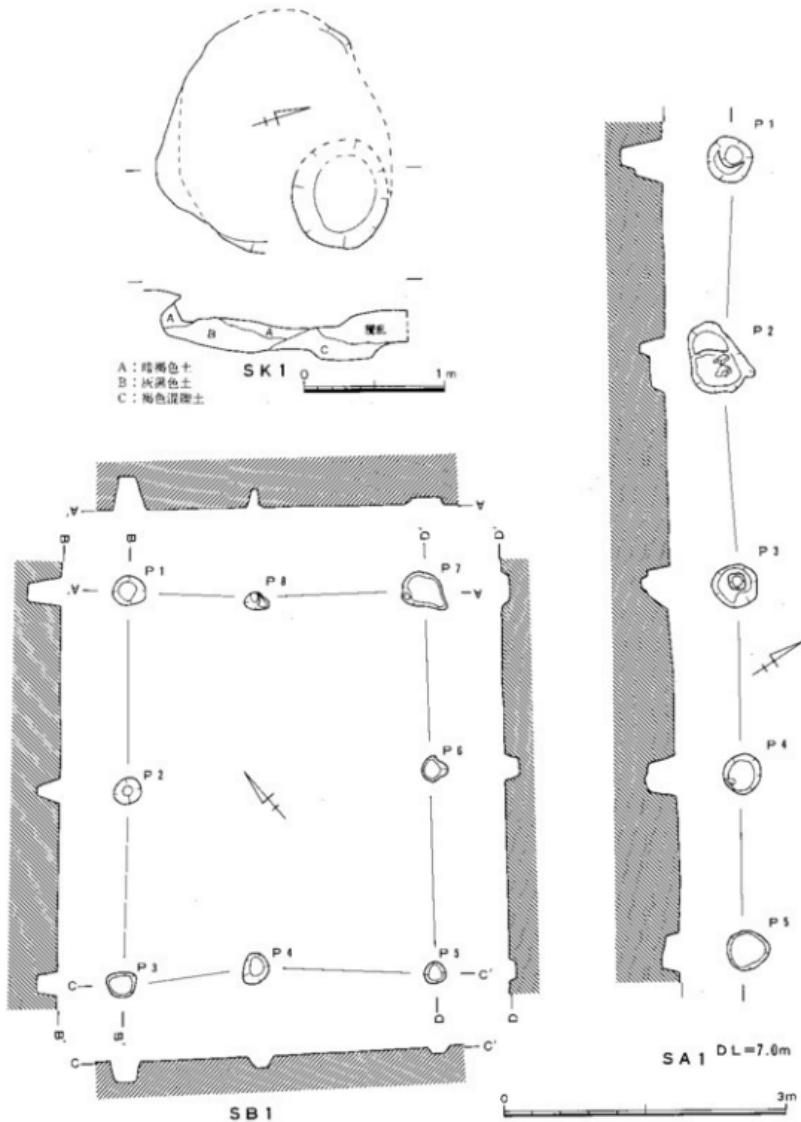


図24 III区 SK1・SB1・SA1

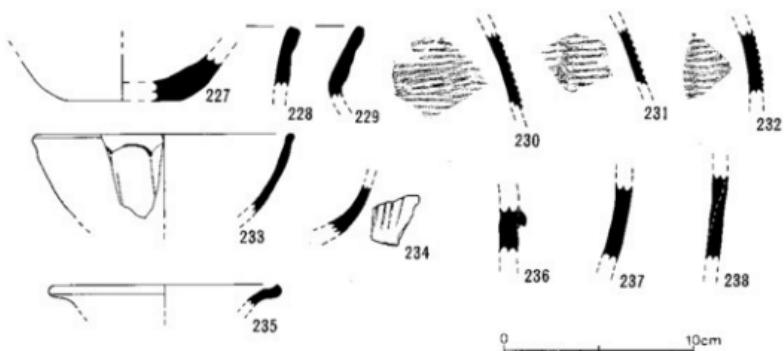


図25 III区 出土遺物実測図

形で、径44~81cm、検出面からの深さ23~48cmを測り、遺構の遺存状態は比較的良好である。柱穴底面の標高は6.532~6.827mを測り、掘り方の断面はすべて柱座部分を一段深く掘り産める段状を呈する。埋土は明褐色粘質土のブロックを含む褐色土ないし灰黒色土で、P 1では柱痕が観察された。

遺物はP 1から陶器、P 2から弥生土器・磁器、P 3から縄文土器・弥生土器・備前焼・陶器、P 4から陶磁器・鉄製品、P 5から磁器がそれぞれ出土しているが、細片が殆どで、図示できたのはP 3出土の備前焼2点である。

S A 1-P 3出土遺物（図25-237・238）

237・238はいずれも備前焼甕で、胴部片である

③その他の遺物（図21-192・194・195・197、図22-213・220、図25、図26）

①弥生土器（図21-192・194・195・197、図22-213・220、図25-227・228）

192・194・195・197は端部外面に刻目のある口縁部片で、195は斜位に施す個体である。192は第III d層出土、194・197は第I層出土、195は表採。213・220は甕の底部片で、ともに第II層出土。227は底部片、228は口縁部片で、いずれも器種は不明。227は第I層出土、228は第III d層出土。

②土師器（図25-229）

229は甕の口縁部で調整は不明。第III c層出土。

③須恵器（図25-230~232）

230~232はいずれも甕の胴部片とみられ、外面に平行タタキ、内面はナデ調整を施す。230は第II層出土、231・232は第I層出土。

④青磁（図25-233~235）

233は碗の口縁部片で、外面にヘラ描きの蓮弁文を施す。234は碗の胴部片で、外面に細い

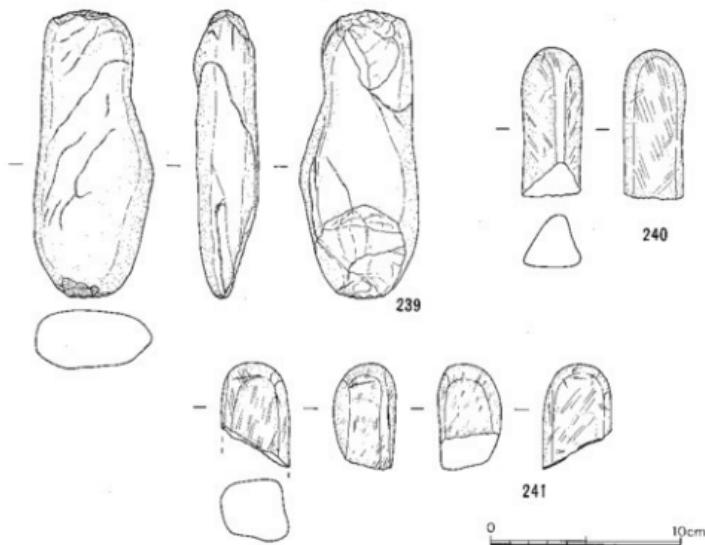


図26 III区 出土遺物（石器）実測図

線描きの蓮弁文を施文する。ともに第Ⅱ層出土。235は皿の口縁部片で、無文である。第Ⅲd層出土。

⑤陶器（図25—236）

236は器種不明の胴部片で、外面に突帶状のものを貼付する。第Ⅱ層出土。

⑥石器類（図26）

239は完形の打製石斧である。泥岩の円礫を素材とし、刃部と着柄部に大きな調整を施す。重量は455gで、第Ⅲd層出土。240・241は砂岩製の砥石で、いずれも折損している。240は3面、241は4面をそれぞれ使用している。240は表採、241は第Ⅱ層出土。

第VII章 IV区の調査

1. IV区の概要

今次調査区全体の中で、東端に位置する調査区である。平面形は東西に長い長方形を呈し、面積は721m²である。

原地形は北方の谷部に向かって傾斜していたものと考えられるが、III区と同様に耕作等に伴いつかつての丘陵頂部は削平されているため、北端部に至って遺構面（岩盤層上部）は急な落ち込みを見せる。削平は著しく、調査区の殆どどの範囲は耕作土の直下が遺構面という状況であった。

2. 層序（図28）

調査によって確認された基本層序は、第I層：耕作土、第II層：褐色土（耕作土下部）、第III層：赤褐色粘質土である。第III層は漸移的に岩盤層へと移行している。従って遺物包含層と呼べるものではなく、第I層・第II層は耕作土中に僅かに遺物が含まれるという状況であった。

遺物は第I層から弥生土器・土師質土器・備前焼・陶磁器、第II層から縄文土器・弥生土器・土師器・青磁・陶磁器・姫島産黒曜石碎片等がそれぞれ出土している。

3. 検出の遺構・遺物

IV区では第III層上面で掘立柱建物跡4棟・土坑状遺構1基・ピット状遺構110基余りの各遺構を検出した。出土遺物は少なく、また細片が殆どで、各遺構及び各層から縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器・青磁・備前焼・陶磁器・姫島産黒曜石・サヌカイト等が認められた。以下、各遺構とその出土遺物、そしてそれ以外の出土遺物の順で記述する。

(1) 遺構

検出できた遺構の中で、掘立柱建物跡4棟について記述する。

① 掘立柱建物跡S B 1 (図29)

調査区の西半部で検出した桁行2間(3.976~3.992m)、梁間2間(3.772~3.908m)の南北棟の掘立柱建物跡で、西面の桁の柱穴1基は検出できなかった。棟方向はN-32°24' - Eを示す。柱間距離は桁行が1.912~2.096m、梁間が1.784~1.996mである。柱穴の掘り方は円形ないし不整形で、径23~38cm、検出面からの深さ10~34cmを測り、遺構の遺存状態は北東部については良好である。柱穴底面の標高は7.235~7.566mを測り、北東部の柱穴は掘り方が深くなっている。埋土はすべて褐色土単純一層である。

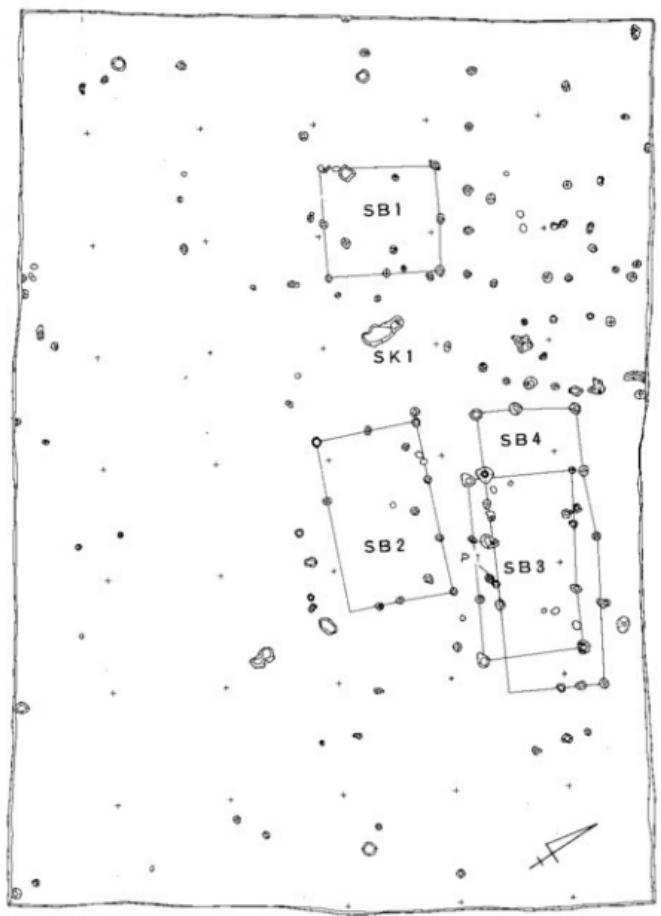


図27 IV区 全体図

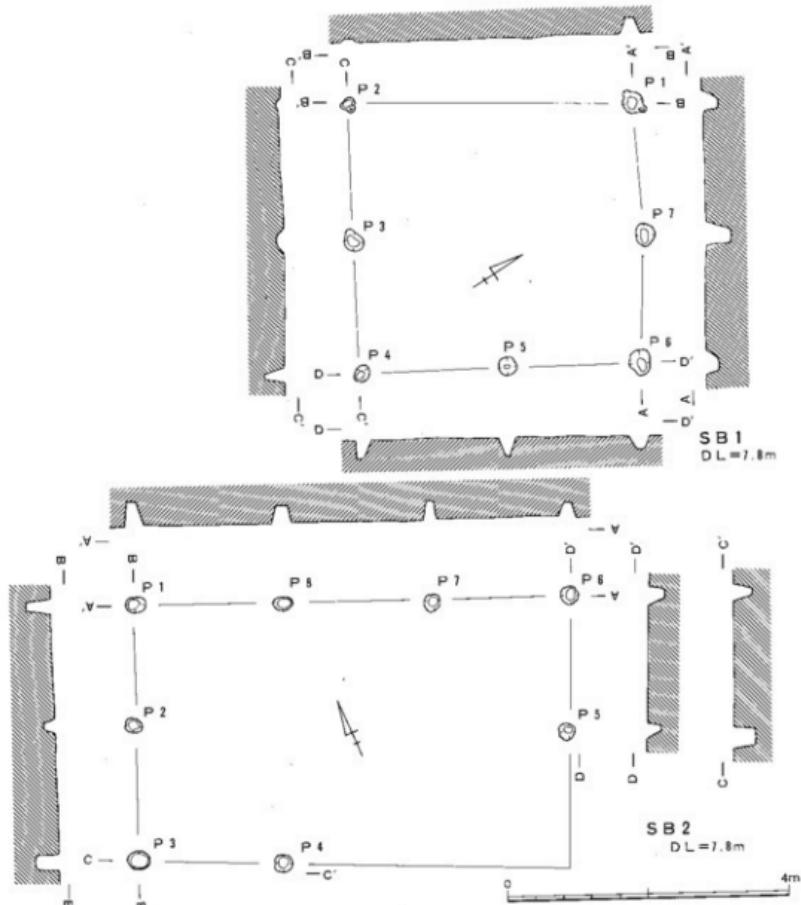
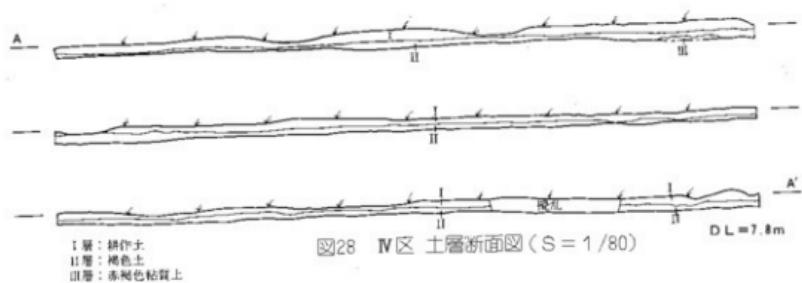


図29 IV区 SB1・2

遺物は検出されなかった。

②掘立柱建物跡 S B 2 (図29)

調査区の西半部で検出した桁行3間(6.248m)、梁間2間(3.656m)の東西棟の掘立柱建物跡で、南東部の柱穴2基は検出できなかった。棟方向はN-66° 18' -Wを示す。柱間距離は桁行が1.992~2.168m、梁間が1.716~1.948mである。柱穴の掘り方は不整円形ないし梢円形で、径26~33cm、検出面からの深さ16~34cmを測り、遺構の遺存状態は比較的良好である。柱穴底面の標高は7.250~7.480mを測る。埋土はすべて褐色土單純一層である。

遺物はP 2から弥生土器片3点が出土したが、すべて細片で、図示できるものはない。

③掘立柱建物跡 S B 3 (図30)

調査区の西半部で検出した桁行3間(6.244~6.404m)、梁間1間(3.528~3.544m)の東西棟の掘立柱建物跡である。棟方向はN-58° 54' -Wを示す。柱間距離は桁行が1.828~2.304m、梁間が3.556~3.564mである。柱穴の掘り方は不整円形ないし不整形で、径26~48cm、検出面からの深さ29~43cmを測り、遺構の遺存状態は良好である。柱穴底面の標高は6.987~7.180mを測る。埋土は褐色土・暗褐色土・暗黄褐色土の3種が認められる。

遺物はP 1から弥生土器片1点、P 4から陶器片1点が出土したが、すべて細片で、図示できるものはない。

④掘立柱建物跡 S B 4 (図30)

調査区の西半部で検出した桁行4間(9.844m)、梁間2間(3.560m)の東西棟の掘立柱建物跡である。棟方向はN-59° 42' -Wを示す。柱間距離は桁行が2.152~2.876m、梁間が1.460~2.144mである。柱穴の掘り方は梢円形ないし不整円形で、径28~62cm、検出面からの深さ12~82cmを測り、遺構の遺存状態は良好である。柱穴底面の標高は6.710~7.240mを測り、北西隅の柱穴掘り方は特に深い。埋土は褐色土・暗褐色土・暗黄褐色土の3種が存在する。

遺物はP 6から弥生土器片1点・磁器片1点、P 9から磁器片1点、P 11から青磁片1点がそれぞれ出土し、P 11出土の青磁片1点を図示することができた。

S B 4 出土遺物 (図31-252)

252は稜花皿の口縁部片で、内面にヘラ描き文様を施す。

(2)遺物 (図31-242~251・253)

出土遺物は少量でしかも細片が多かったが、上記以外の遺構及び各層出土遺物の中で11点を図示することができた。以下、器種別に記述する。

①弥生土器 (図31-242・244・245)

242・244・245は口縁部片で、242は端部内外面に刻目を施す。244・245は器種不明。242は第II層出土、244・245はSK 1出土。

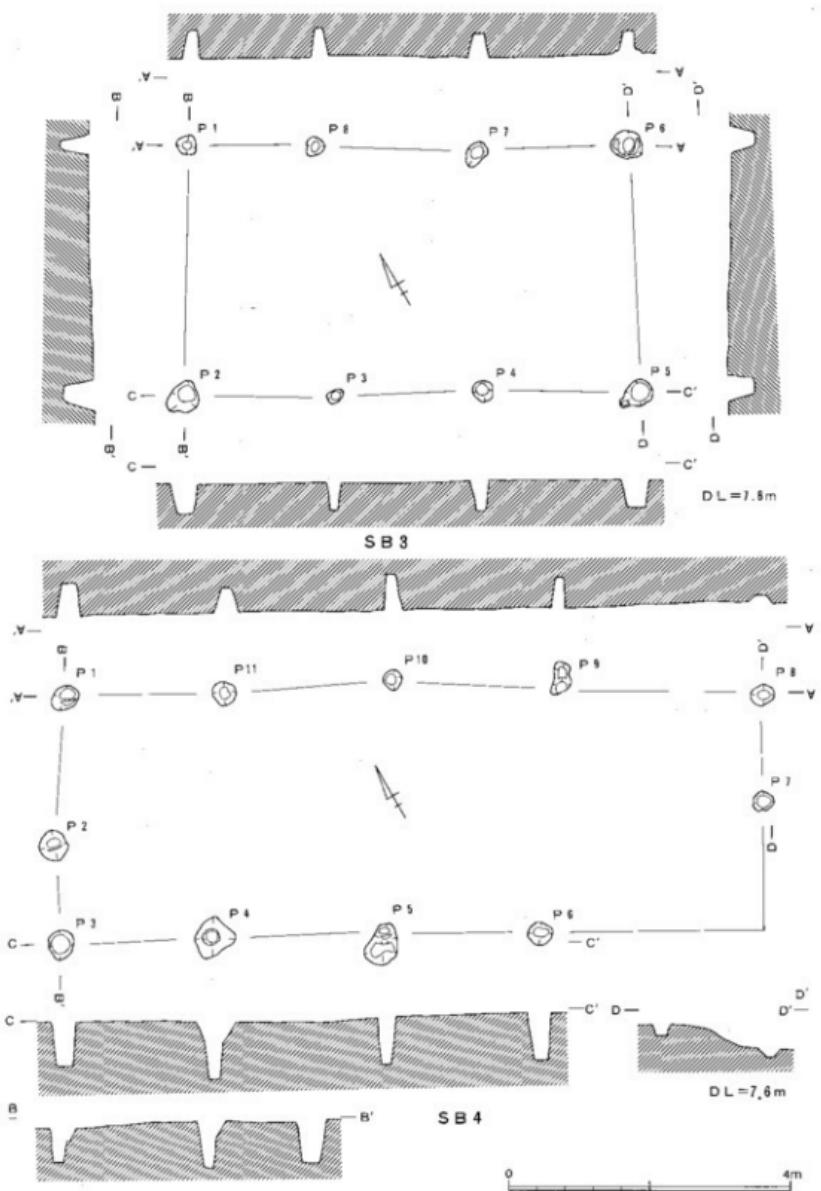


図30 IV区 SB3・4

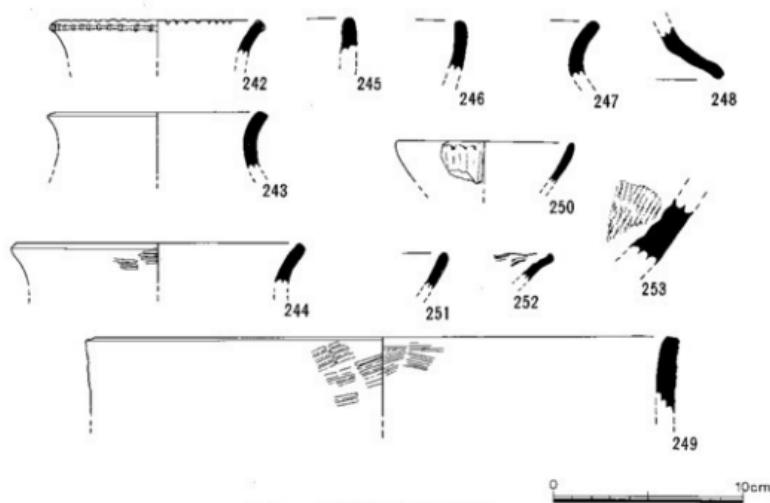


図31 IV区 出土遺物実測図

②土師器（図31-243・246～249）

243・246・247は口縁部片で、243・247は甕である。248は高杯の裾部で、SK1出土。249は外面に平行タタキを施す口縁部片である。243・247・249は第II層出土。246はP1出土。

③青磁（図31-250・251）

250・251ともに碗の口縁部片で、250は外面にヘラ書きの蓮弁文を施し、251は内外面とも無文である。250は表採、251は第II層出土。

④備前焼（図31-253）

253は擂鉢の胴部片で、第I層出土。

第VIII章 総括

今次調査は、現存する国見遺跡のほぼ全城を対象としたもので、木村剛朗氏によって紹介されていた国見遺跡の内容を明らかにし得る最後の機会だったといえる。数次に亘る開墾・削平・耕作という先人の営みによって、遺跡の大半は既に姿を消してしまっていたが、一部に遺存していた縄文時代後期の遺物包含層から、縄文中期土器・後期土器の貴重な資料を得ることができた。また、弥生時代前期の住居跡の検出によって、当地域では未だ不明であった弥生時代前期の集落及び当該期の土器に関する資料を蓄積することができた。これ以降の古墳時代・中世・近世等の時代についても、断片的ではあるが、各時代の遺構を検出することができ、縄文時代から近世に至る各時代ごとの国見遺跡の性格を検討する資料が得られた。

以下、各時代の遺構・遺物等について若干の所見を綴り、まとめとする。

(1)縄文時代の遺構・遺物について

縄文時代に関しては、その遺物は全調査区から検出されているが、縄文時代の遺構及び純粹な遺物包含層が遺存していたのはⅡ区のみで、しかもその一角に辛うじて残っていたという状況であった。

縄文時代の遺構は、Ⅱ区のSK1、SX1・2が挙げられ、Ⅱ区のピット状遺構の中に若干該当するものが存在する可能性がある。既に記したように、遺物包含層には縄文時代中期・後期の遺物が混在しており、またSK1からも両時期の遺物が出土していることから、縄文時代中期の遺物包含層・遺構面に後期の生活（攪乱）が営まれたものと理解されよう。集石遺構については、本報告では具体的な検討をすることができなかつたが、その性格付けには、集石を構成する個別の礫単位での分析を行っていく必要があると考える。機会をみて再考したい。

縄文時代の遺物は、中期土器・後期土器と若干の石器が出土した。

中期の土器は、従来高知県においてまとまって出土した例は少なかったが、細片が多いとはいへ、今次調査では83点を図示することができた。その内容は、船元I式等の船元式土器が大半であるが、38~41のような里木II式土器との関連を想起させる土器もみられ、中期の中でも時期差をもった数型式が認められる。高知県の縄文中期土器を検討する有効な資料群といえよう。

後期の土器は、平城式土器が主体で、これに中津式土器や平城式土器よりもやや新相の土器等が若干出土している。平城式土器はⅠ類土器・Ⅱ類土器の両者が出土しているが、Ⅰ類土器は85の1点のみで、しかも赤彩を施してあり、異質な印象を受ける。出土状態は良好とはいえないが、Ⅱ類土器が主体となって出土した貴重な例として、当該期の研究にとって有効な資料

となろう。なお、縄文早期・前期の可能性のある土器若干が出土しており、今後検討を加える必要がある。

(2)弥生時代前期の遺構・遺物について

弥生時代に関しては、遺物は各調査区からその出土をみたが、明確な遺構の確認にいたったのはⅢ区のみであった。

Ⅲ区のST1は、幡多地方において初検出の弥生前期住居跡である。遺存状態は良くなかつたとはいえ、今まで検討材料のないために触れられることのなかった、幡多地方の弥生集落研究の貴重な資料として位置付けられよう。また、ST1出土の弥生土器は、弥生前期中葉に位置付けられるものと考えられ、従来該当資料のなかった当地域の土器編年[newline]に新たな資料を追加することとなった。更に181のような搬入土器を含んでおり、その製作地の問題等、検討課題は多い。

(3)古墳時代の遺構・遺物について

古墳時代に関しては、Ⅱ区で集石土坑SK2を検出し、各調査区で土師器等の遺物が出土した。当該期の資料は少ないが、SK2から白玉が出土していることから、従来指摘されているような祭祀遺跡としての性格を裏付けるものと解釈することもできよう。

(4)中・近世の遺構・遺物について

中世及び近世に関しては、Ⅲ区・Ⅳ区において掘立柱建物跡・ピット列等の遺構、及び青磁・備前焼等の遺物を検出した。遺構は殆どが近世に営まれたものと考えられるが、出土した青磁から、その当時、当地に何らかの遺跡が存在したことは明らかである。国見遺跡の所在する中筋平野は、中世城郭の多い地域として特筆できる。遺跡から見渡せる範囲にも5箇所以上の山城が存在していたはずであり、当時の国見遺跡の性格付けについては、付近の城郭との有機的な関連の中で理解しなければならないであろう。

註

- (1)木村剛朗「国見遺跡」『四万十川流域の縄文文化研究』幡多埋文研 1987年
- (2)間壁忠彦・間壁貞子「里木貝塚」『倉敷考古館研究集報』第7号 倉敷考古館 1971年
- (3)鎌木義昌・西田栄『伊豫平城貝塚』愛媛県御荘町教育委員会 1957年

遺物觀察表

辨認番号	出土地點 ・層位	器種	法度 (cm)	文様・調整	外觀 内面	色調 内面 外觀	地土	備考
図4- 1	I区・V層	縄文土器 縄文 腹部	残高 2.6	指爪押印? ナデ	ESR 10VR 7/3 " " 7/4	赤色チャート		
# - 2	" "	" "	残高 3.0	無筋縄文R ナデ?	橙 SVR 7/6 " " "	チャート		
# - 3	" IV層	土師器 口縁部	残高 4.2	ナデ 不明	藍 7.5VR 8/4 " " 8/5			
# - 4	" "	縄 口縁部	残高 6.2	不規 不規	橙 SVR 7/6 " " "			
# - 5	" "	" "	口徑 21.0 残高 9.4	不規 不規	藍 10VR 8/4 " " "			
# - 6	" "	" "	口径 15.6 残高 2.5	ナデ	橙 7.5VR 7/6 " " "			
# - 7	" V層	仰生土器 底部	残高 2.8 底径 6.2	タテハケ, ナデ	橙 2.5VR 6/8 " SVR 6/6	石英, 霧母		
# - 8	" IV層	土師器 底部	残高 6.5	ナデ	藍 10VR 8/3 " 8/4			
# - 9	" "	縄 口縁部	口徑 26.0 残高 2.2	ヨコナデ ヨコナデ	ESR 10VR 7/2 " " "	石英, チャート		
# - 10	" "	須恵器 環盃 天井部	残高 2.7 直径 13.0	回転タケアリ, ナデ 回転ナデ, ナデ	灰 7.5Y 5/1 " " "			
図9- 11	II区・Ⅱb層	縄文土器 有文深鉢 口縁部	残高 4.9	後帶, 具輪圧痕, ナデ 具輪圧痕, ナデ	ESR 10VR 7/3 " " "	石英, 霧母	波状口縁	
# - 12	" III層	" "	残高 2.2	後帶, 具輪圧痕, ナデ 具輪圧痕, ナデ	ESR 10VR 8/3 " " "	石英, 霧母	波状口縁	
# - 13	" IIIb層	" "	残高 4.0	縄文L, 具輪圧痕 ナデ	藍 10VR 5/2 " " "	長石, 石英, 霧		
# - 14	" "	" 口縁部	残高 3.1	W波L, 残, 亂れ, ナデ 無筋縄文, ナデ	ESR 7.5VR 6/4 " SVR 7/1	長石		
# - 15	" "	" "	残高 3.7	W波L, 残, 亂れ, ナデ 無筋縄文, ナデ	ESR 7.5VR 6/4 " " "	長石		
# - 16	" "	" "	残高 3.5	施縄文L, 残, ナデ 乱れ, ナデ	ESR 10VR 7/1 10VR 6/2	長石	波状口縫	
# - 17	" "	" 腹部	残高 4.7	W波L, 残, 亂れ, ナデ 無筋縄文, ナデ	ESR 7.5VR 7/4 " " "	長石, 霧母		
# - 18	" "	" "	残高 5.2	W波L, 残, 亂れ, ナデ 無筋縄文, ナデ	藍 SVR 6/6 ESR 7.5VR 6/1	チャート		
# - 19	" III層	" 口縁部	残高 3.1	塔形, 竹管刺突, ナデ ナデ	橙 7.5VR 7/6 " " "	石英, 長石	波状口縫	
# - 20	" IIIb層	" 腹部	残高 2.2	隆起, 竹管刺突, ナデ ナデ	ESR 7.5VR 7/4 " " "	長石, 霧母	天地不明	
# - 21	" "	" "	残高 2.8	隆起, 乱れ, ナデ ナデ	ESR 10VR 6/3 " 7/4	石英, 長石, 霧母		
# - 22	" "	有文 腹部	残高 2.1	隆起, 沈縫, ナデ ナデ	ESR 10VR 6/3 " 7/3	長石, 石英		
# - 23	" III層	有文深鉢 腹部	残高 2.7	縄文L, 沈縫 縄文L R?	ESR 10VR 6/4 7.5VR 6/6	霧母, 石英	擬似縄文?	
# - 24	"	縄文深鉢 腹部	残高 2.6	撚糸L 沈縫, ナデ	藍 7.5VR 6/6 ESR 6/3	霧母, 赤色チャート		
# - 25	" IIIb層	有文 口縁部	残高 2.2	沈縫, ナデ ナデ	ESR 7.5VR 6/3 " " "	石英, 赤色チャート, 長石		
# - 26	" IIIb層	" "	残高 2.9	縄文?, 沈縫 ナデ	ESR 7.5VR 7/4 " " "	石英, 赤色チャート, 長石		
# - 27	" "	" "	残高 1.5	沈縫, ナデ ナデ	ESR 7.5VR 7/4 " " "	石英, 霧母, 長石, チャート		
# - 28	" "	" 腹部	残高 1.4	沈縫, ナデ ナデ	ESR 7.5VR 7/4 " " "	赤色チャート, 霧母, 石英		
# - 29	" "	有文 口縁部	残高 1.0	沈縫, 始沈縫 ナデ	萬 7.5VR 4/4 ESR 7.5VR 5/3		内面スス	
# - 30	" "	有文 腹部	残高 2.3	沈縫 ナデ	ESR 10VR 6/3 " " "	石英		

標題番号	出土地点 ・層位	器種	法量 (cm)	文様・調整	外面 内面	色調	内面 外面	胎土	備考
図9- 31	II区・田b層	縄文土器 有文深鉢 腹部	残高 3.2	椎円刻突? ナゲ	赤褐色 10YR 5/4 6/3	石英、長石	黒褐色文? 外面スズ		
〃 - 32	〃 - "	" "	残高 3.0	椎円刻突? ナゲ	赤褐色 10YR 5/6 6/3	長石、石英、雲母	黒褐色文?		
〃 - 33	〃 - "	" "	残高 2.8	椎円刻突? ナゲ	赤褐色 10YR 5/6 6/3	石英、長石、子雲母	黒褐色文?		
〃 - 34	〃 - "	" "	残高 2.4	浅黄 ナゲ	浅黄 2.5Y 7/3 7.5YR 7/6	赤色チャート、雲母、長石			
〃 - 35	〃 - "	" "	残高 2.1	枕鍋、米粒状網突 ナゲ	褐褐色 5YR 5/6 7.5YR 6/4		黒褐色文? 外面スズ		
〃 - 36	〃 - "	" "	残高 4.1	枕鍋、椎円刻突、ナゲ	褐褐色 7.5YR 6/6 10YR 7/4	雲母	黒褐色文? 外面スズ		
〃 - 37	〃 - "	" "	残高 5.7	椎円刻突 ナゲ	赤褐色 10YR 6/6 6/3	石英	黒褐色文? 外面スズ		
〃 - 38	〃 - "	口縁部	口径 22.0 残高 5.3	弦目1.7、陶器、削光 ナゲ?	褐褐色 5YR 6/6 6/3	石英			
〃 - 39	〃 - "	" "	残高 3.2	棱形、側突、ナゲ	褐褐色 5YR 6/6 6/3	石英			
〃 - 40	〃 - "	" "	残高 2.8	無文、錐突、削光、ナゲ ナゲ?	褐褐色 5YR 6/6 6/3	石英、長石、雲母			
〃 - 41	〃 - "	" "	残高 2.4	棱形、側突、ナゲ	褐褐色 5YR 6/6 6/3	石英			
〃 - 42	〃 - 四層	" "	残高 2.4	枕鍋、枕鍋、ナゲ ナゲ?	褐褐色 5YR 5/6 10YR 5/3	赤色チャート、雲母			
〃 - 43	〃	腹部	残高 3.7	鼓形、側突、1F ナゲ?	褐褐色 10YR 4/2 7.5YR 7/4	長石、石英			
〃 - 44	〃 - 田層	" "	残高 6.0	縄文R.L.、泡貝刻突 茎痕	赤褐色 10YR 7/3 10YR 7.5YR 6/4	長石、石英			
図10- 45	〃 - III b層	縄文深鉢 腹部	残高 4.5	無筋褐色R ナゲ	赤褐色 10YR 7/3 6/3		外面スズ		
〃 - 46	〃 - "	" "	残高 3.8	無筋褐色R ナゲ?	赤褐色 10YR 6/3 6/3				
〃 - 47	〃 - "	" "	残高 3.0	無筋褐色R ナゲ	赤褐色 10YR 7/3 6/3		補隙孔、外面スズ		
〃 - 48	〃 - "	" "	残高 5.6	無筋褐色R、ナゲ ナゲ	赤褐色 10YR 5/3 褐褐色 5YR 7/6	長石、雲母			
〃 - 49	〃 - I層	" "	残高 2.4	無筋褐色R、ナゲ ナゲ	赤褐色 10YR 7/3 6/3	石英、長石、雲母、チャート			
〃 - 50	〃 - III b層 有文	腹部	残高 3.2	無筋褐色R、削光 ナゲ	褐褐色 7.5YR 6/6 6/3	長石、雲母	天地不明		
〃 - 51	〃 - "	縄文 腹部	残高 3.1	無筋褐色R ナゲ	褐褐色 2.5Y 5/2 10YR 5/4	赤色チャート、雲母			
〃 - 52	〃 - "	縄文深鉢 腹部	残高 4.9	無筋褐色R ナゲ	浅黄色 2.5Y 7/3 10YR 6/3				
〃 - 53	〃 - "	縄文 腹部	残高 2.2	無筋褐色R、沈痕 ナゲ	褐褐色 5YR 6/6 6/3	長石、赤色チャート			
〃 - 54	〃 - "	縄文深鉢 刻部	残高 3.6	無筋褐色R ナゲ	赤褐色 10YR 7/3 6/3	雲母			
〃 - 55	〃 - "	" "	残高 3.5	無筋褐色R ナゲ	褐褐色 10YR 7/4 5YR 6/6	長石、雲母			
〃 - 56	〃 - "	" "	残高 3.8	縄文R.L. ナゲ?	褐褐色 10YR 4/1 6/3	石英			
〃 - 57	〃 - I層	" "	残高 2.2	縄文R.L. ナゲ	赤褐色 5YR 5/4 10YR 7/4	石英			
〃 - 58	〃 - III b層	縄文 腹部	残高 1.9	縄文R.L. ナゲ	褐褐色 2.5YR 5/6 10YR 7/4	長石			
〃 - 59	〃 - I層	縄文深鉢 腹部	残高 2.7	無文R ナゲ	褐褐色 10YR 5/2 6/3	雲母、石英、長石			
〃 - 60	〃 - III b層	" "	残高 2.4	無文R ナゲ	褐褐色 10YR 4/2 6/3				
〃 - 61	〃 - "	" "	残高 2.0	無文L 不明	褐褐色 2.5YR 5/6 6/3				

擇因番号	出土地点 ・層位	岩種	法量 (cm)	文様・調型	外面 内面	色調 外面	胎土	備考	
図10- 62	II区・IIIb層 埴文深鉢	口縁部 腹部	残高 3.2	西名R ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 4/2 "			
〃 - 63	〃 - 田層 埴文	口縁部	残高 2.4	無地埴文L, ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 5/0 "	水晶, 雪母		
〃 - 64	〃 - IIIb層 〃	〃	残高 2.3	無地埴文L, ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 5/0 "	雲母, 石英, 長 石		
〃 - 65	〃 - 〃	埴文深鉢	口縁部	残高 2.2	埴文L只 ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 4/1 5/0	赤色チート, 長石, 雪母	
〃 - 66	〃 - 〃	〃	残高 3.1	埴文只L ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 5/1 "	石英, 雪母	外画スヌ	
〃 - 67	〃 - 〃	〃	残高 4.3	埴文L只 ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 5/1 7/0	赤色チート, 雲母, 石英		
〃 - 68	〃 - 〃	〃	残高 3.8	埴文L只 ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 4/1 7.SVR 7/4	赤色チート, 石英, 長石		
〃 - 69	〃 - 〃	〃	残高 3.5	埴文R L? ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 7/6 残黄 2.5Y	長石, 赤色チヤ ー, 雪母		
〃 - 70	〃 - 〃	〃	残高 3.2	西名R ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 6/6 "	石英, 赤色チヤ ー	外画スヌ	
〃 - 71	〃 - 〃	〃	残高 3.0	西名L ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 6/1 残黄 5YR 6/0	赤色チート, 長石		
〃 - 72	〃 - 〃	〃	残高 3.5	西名L, ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 6/4 SVR 5/6	赤色チート, 石英, 長石		
〃 - 73	〃 - 〃	無文深鉢	口縁部	口径 22.4 残高 8.0	条痕? , ナデ ナデ	褐色 7.5YR 10YR 8/6	長石, 雪母	波状口縁 外画スヌ	
〃 - 74	〃 - 田層	〃	残高 2.9	条痕? ナデ?	輪郭 " "	褐色 7.5YR 10YR 7/6	赤色チート, 石英, 長石		
〃 - 75	〃 - 〃	埴文	口縁部	残高 2.1	埴文L R? ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 7/3 7.SVR 7/4	赤色チート, 雲母, 石英	
〃 - 76	〃 - IIIb層 無文深鉢	口縁部	残高 2.7	無地埴文?, ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 5/6 残黄 2.5Y	赤色チート, 長石, 石英		
〃 - 77	〃 - SKI 無文	口縁部	残高 2.9	ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 6/6 残黄 2.5Y	赤色チート, 長石		
〃 - 78	〃 - IIIb層 無文深鉢	口縁部	残高 4.5	条板?, ナデ ナデ?	輪郭 " "	褐色 10YR 7/2 残黄 5/2	長石	外画スヌ	
〃 - 79	〃 - 〃	〃	残高 4.5	ナデ 朝み目, ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 6/6 SVR 6/4	赤色チート, 雲母, 石英		
〃 - 80	〃 - 〃	〃	残高 5.1	朝み目, ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 7/6 " "	赤色チート, 雲母, 長石		
〃 - 81	〃 - 田層	〃	残高 2.7	条板? ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 5/6 " "	赤色チート, 雪母		
〃 - 82	〃 - SKI 底部	〃	残高 1.6 底径 8.7	西名R L, ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 7/2 7.SVR 7/6	長石, 石英		
〃 - 83	〃 - IIIb層 〃	〃	残高 2.2	ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 2/1 SVR 6/6	赤色チート, 長石, 雪母		
図11- 84	〃 - 〃	有文深鉢	口縁部	残高 4.0	沈縫, ナデ ナデ	輪郭 " "	褐色 SVR 6/4 7.SVR 6/3	長石	
〃 - 85	〃 - 〃	有文浅鉢	口縁部	残高 5.4	西名R L, 沈縫 西名R L, 沈縫, 三方 ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 6/1 7.SVR 6/3	長石, 雪母	赤彩口縁
〃 - 86	〃 - TPII 田層	有文深鉢	口縁部	残高 5.9	西名R L, 沈縫 ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 6/8 7/1	石英	波状口縁
〃 - 87	〃 - 〃	〃	残高 3.2	西名R L, 沈縫 ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 6/3 " "	石英		
〃 - 88	〃 - 田層	〃	残高 3.4	円形純突, 沈縫, ナデ 不明	輪郭 " "	褐色 2.5YR 7/1 7.SVR 5/8	長石, 石英, 雪 母		
〃 - 89	〃	〃	残高 3.5	竹管判次, 沈縫 ナデ	輪郭 " "	褐色 7.5YR 4/1 " "	石英, 長石, 雪 母		
〃 - 90	〃 - IIIb層 〃	〃	残高 4.9	沈縫 ナデ?	輪郭 " "	褐色 2.5YR 7/2 7.SVR 6/3	長石, 石英, 雪 母		
〃 - 91	〃 - 〃	〃	残高 3.0	沈縫, ナデ 不明	輪郭 " "	褐色 SVR 6/1 5/6	石英, 長石		
〃 - 92	〃 - 〃	〃	残高 2.4	西名R L, 沈縫 ナデ	輪郭 " "	褐色 10YR 6/3 SVR 5/8	長石, 石英		

探査番号	出土地点・層位	器種	法面 (cm)	文様・調査 外側 内面	色調 内面 外側	黏土	備考
図11- 83	II区	縄文土器 有文深鉢	脚部 残高 4.3	沈縫 不明	赤褐色 SYR 4/8 2.SYR 5/8	石英, 長石	
〃 - 94	〃 - III b層	〃 口縫部	残高 5.2	沈縫, ナデ?	淡黃 SYR 7/4 2.SYR 5/4	石英	外面スヌ
〃 - 95	〃 - SK I	〃 〃	残高 4.6	縄文RL, 沈縫 ナデ?	褐色 SYR 5/8 6/8	石英	
〃 - 96	〃 - III b層	〃 脚部	残高 5.0	縄文良し, 沈縫 ナデ?	赤褐色 SYR 7/1 7.SYR 6/8	石英, 長石	
〃 - 97	〃 - 〃	〃 有文	脚部 残高 2.9	沈縫 ナデ?	赤褐色 SYR 4/8 6/8	チャート	
〃 - 98	〃 - 〃	〃 〃	残高 1.8	沈縫 ナデ?	淡 SYR 6/9 2.SYR 5/8	長石	
〃 - 99	〃 - 〃	〃 〃	残高 1.7	沈縫 ナデ?	紅褐色 SYR 3/1 SYR 6/6	長石	
〃 - 100	〃 - III層	〃 有文深鉢	脚部 残高 2.8	沈縫 ナデ?	褐色 SYR 7.5/8 7/8	赤色チャート, 石英, 霽母	
〃 - 101	〃 - III下B層	〃 〃	残高 2.6	縄文RL, 沈縫 ミガキ	褐色 SYR 10/9 2.SYR 5/8	雲母, 長石	
〃 - 102	〃 - III b層	〃 〃	残高 3.1	縄文RL, 沈縫 ミガキ	褐色 SYR 3/2 2.SYR 5/6	青灰, 石英	磨消縄文
〃 - 103	〃 - PI	〃 有文	脚部 残高 2.8	縄文RL, 沈縫 ナデ?	淡黃 SYR 8/4 6/8	長石, 石英	磨消縄文
〃 - 104	〃 - SK 2	〃 有文深鉢	脚部 残高 2.8	縄文しR, 沈縫 ナデ?	褐色 SYR 5/6 6/8	石英, 長石	
〃 - 105	〃 - III下B層	〃 脚部	残高 3.4	沈縫, ナデ? ナデ?	褐色 SYR 10/9 7/8 6/6	石英, 霽母	
〃 - 106	〃 - SK 2	〃 〃	残高 3.2	沈縫, 猫爪跡み ナデ?	褐色 SYR 5/6 6/8	石英, 長石	外面スヌ
〃 - 107	〃 - IV層	〃 〃	残高 2.4	円形刻妻 ナデ?	褐色 SYR 6/4 6/8	チャート	外面スヌ
〃 - 108	〃 - III層	縄文深鉢	脚部 残高 3.3	縄文良し ナデ?	褐色 SYR 6/4 灰褐色	雲母, 石英, 長 石	
〃 - 109	〃 - III b層	〃 有文深鉢	脚部 残高 3.8	沈縫, ナデ? ナデ?	褐色 SYR 5/6 6/8	長石, 霽母, 石 英	
〃 - 110	〃 - 〃	〃 有文	口縫部 残高 1.8	縄文RL, 開み口 ナデ?	褐色 SYR 7.5/9 5/8	雲母, 長石	
〃 - 111	〃 - 〃	〃 無文	口縫部 残高 3.0	ナデ? ナデ?	褐色 SYR 6/6 6/8	長石, 霽母	
〃 - 112	〃 〃	〃 〃	残高 2.5	不明 不明	褐色 SYR 5/8 6/8	長石, 赤色チャ ート	
〃 - 113	〃 - III b層	無文深鉢	脚部 残高 5.3	ナデ? ナデ? ナデ?	明褐色 SYR 7.5/8 5/6	石英, 霽母	
〃 - 114	〃 - 〃	〃 〃	残高 4.1	豪痕?, ナデ? ナデ?	褐色 SYR 4/1 2.SYR 5/6	長石	
〃 - 115	〃 - III層	〃 〃	残高 4.9	豪痕?, ナデ? ナデ?	褐色 SYR 5/0 6/6	灰石, 石英	
〃 - 116	〃 - III b層	深鉢	底部 残高 11.0	ナデ? ナデ?	褐色 SYR 6/6 2.SYR 5/6	石英, 長石, 霽 母	若干上部底
〃 - 117	〃 - 〃	〃 〃	残高 2.2	不明 ナデ?	褐色 SYR 8/3 6/6	石英, 長石, 赤 色チャート	
〃 - 118	〃 - III層	〃 〃	残高 1.3	ナデ? ナデ?	浅褐色 SYR 7.5/9 7.SYR 6/6	赤色チャート, 石英, 霽母	
〃 - 119	〃 - III b層	〃 〃	残高 1.8	ナデ? ナデ?	褐色 SYR 10/9 5/3 SYR 5/6	長石, 石英	
〃 - 120	〃 - III下B層	無文深鉢	底部 残高 2.9	不明 ナデ?	褐色 SYR 7/1 6/6	石英, 霽母	内面スヌ
〃 - 121	〃 - III b層	土師器	口縫部 残高 1.5	ナデ? ナデ?	黑色 SYR 1.7/4 SYR 4/6	石英, 長石, 霽 母	
図14- 139	〃 - III下B層	土師器	口縫部 残高 3.6	ハケ, ナデ? ナデ?	褐色 SYR 6/6 6/8		
〃 - 134	〃 - 〃	〃 〃	口縫部 残高 14.0	小斑 不明	褐色 SYR 6/4 6/8	石英, 霽母	

拂開番号	出土地点 ・層位	器種	法量 (cm)	文様・調整 外面 内面	色調 外面 内面	胎土	備考	
図14- 135	日比・和田口層	七脚器 口縁部	残高 2.3	子字? 不明	橙 7.5YR 7/6 7/6	石英		
# - 136	# · #	#	残高 1.5	子字? 不明	橙 7.5YR 7/6 7/6	石英		
図17- 137	田区・ST I	譜文上部 有文深鉢	口縁部	残高 5.0	無筋繩文R. 円引き沈縫 無筋繩文L.	橙 5YR 10YR 7/3	長石 波状口縁	
# - 138	# · #	#	残高 2.8	模様、斜め目 不明	5YR 10YR 7/6	石英、長石 波状口縁		
# - 139	# · #	#	残高 2.7	無筋繩文R 子字?	5YR 10YR 7/6	長石、雲母		
# - 140	# · III d 層	#	口縁部	残高 2.2	無筋繩文R. 子字? 列点斜突、子字?	橙 7.5YR 7/6 7/6	長石、石英、雲 母?	
# - 141	# · SK I	有文	脚部	残高 1.9	沈縫、子字? 子字?	5YR 10YR 8/3 7/6	長石、石英	
# - 142	# · II 層	#	口縁部	残高 2.2	無筋繩文R. 円形斜突 子字?	5YR 10YR 7/4 2.5YR 8/6	長石 石英、長石	
# - 143	# · III d 層	譜文深鉢	脚部	残高 3.9	譜文L. 子字?	5YR 10YR 8/3 7/6 SVR 8/4	雲母、石英、長 石	
# - 144	# · I 層	#	底部	残高 1.0 底径 6.2	譜文R.? 不明	橙 7.5YR 8/6 7/6	石英、雲母	底面に譜文L.R.?
# - 145	# · III d 層	有文深鉢	脚部	残高 3.4	譜文R.L.、旋其斜突 子字?	5YR SVR 4/4	雲母、長石	
# - 146	# · P I	#	口縁部	残高 2.9	譜文R.L.、旋其斜突 子字?	橙 5YR 5/8 7/6	赤色チャート、 長石、雲母	
図18- 147	# · III d 層	口縁部	口径 5.7	32.2 丸丸、複数、譜 沈縫、子字?	浅黄 2.5YR 7/2 7.5YR 7/6	石英、長石		
# - 148	# · #	#	口径 5.5 残高 5.6	35.2 譜文L.、沈縫 子字?	橙 5YR 5/6 5/3	石英、長石		
# - 149	# · #	#	口径 30.2 残高 5.6	譜文L.? 沈縫 不明	浅黄 2.5YR 4/6 7/3	石英、長石		
# - 150	# · #	#	残高 7.1	沈縫、竹管斜突 子字?	浅黄 2.5YR 7/4 7/3	石英、長石、雲 母?	波状口縁	
# - 151	# · #	#	残高 4.3	沈縫 子字?	5YR 7.5YR 6/4 7/6	石英、長石		
# - 152	# · II 層	#	残高 3.2	沈縫、子字 子字?	5YR 2.5YR 7/8 7.5YR 5/6	石英、長石		
# - 153	# · SB1-P1	#	残高 3.4	沈縫 子字?	5YR 10YR 5/1 8/4	石英、長石		
# - 154	#	#	残高 3.5	譜文R.L.、沈縫 子字?	5YR 10YR 7/3	石英、長石		
# - 155	# · ST I	#	残高 5.2	沈縫、沈縫の斜突? 子字?	5YR 10YR 8/2 8/6	石英、長石		
# - 156	# · III d 層	#	残高 3.6	沈縫? 子字?	5YR 2.5YR 7/6 10YR 7/4	石英、長石		
# - 157	# · II 層	#	残高 3.6	沈縫、子字 子字?	5YR 2.5YR 5/8 7/6	石英、長石		
# - 158	# · #	#	残高 5.0	譜文R.L.、沈縫 子字?	5YR 10YR 8/5 7/6	石英、長石		
# - 159	# · III d 層	#	残高 4.0	譜文R.L.、沈縫 子字?	5YR 10YR 7/5 8/6	石英、長石		
# - 160	# · #	有文	脚部	残高 3.2	譜文R.L.、沈縫 子字、 子字?	5YR 10YR 8/1 2.5YR 8/6	雲母	
# - 161	# · #	#	残高 2.6	譜文R.L.、沈縫 子字?	5YR SVR 5/6 7/6	石英、長石		
# - 162	# · #	#	残高 2.1	譜文R.L.、沈縫 子字?	5YR 7.5YR 7/4 2.5YR 7/6	赤色チャート、 長石		
# - 163	# · #	#	残高 1.3	譜文R.L.、沈縫 子字?	5YR SVR 8/6 7/6	石英、長石、雲 母		
# - 164	# · #	#	残高 1.6	沈縫? 子字?	5YR 10YR 8/4	石英、長石		
# - 165	# · #	#	残高 2.8	竹管斜突、子字 子字?	浅黄 2.5YR 7/3 7.5YR 6/6	石英、長石		

拂因番号	出土地点・層位	器種	法量 (cm)	文様・調査	外面 内面	色調 外面 内面	胎土	備考
9118-106	III区・Ⅲd層 横文上器 蓋文	口縁部	残高 2.7	不明 ナデ ナデ	桂 SYR 10VR 7/4	石英、長石		
# - 167	# · I層	# #	残高 1.8	ナデ ナデ	桂 2.5VR 5VR 6/8	石英、長石		
# - 168	# · Ⅲd層	# 脇部	残高 1.5	ナデ ナデ	桂 2.5Y 5VR 5/8	石英、長石		
# - 169	# · I層	# #	残高 1.0	不明 ナデ	桂 10VR 赤泥 2.5VR 4/8	石英、長石		
9230-170	# · ST 1	棒生土器 蓋	口縁部 残高	17.4 3.0	ミガキ ミガキ	桂 7.5VR 7/4 桂 H		額部外側は1段をなす
# - 171	# · #	# #	口縁 残高	14.4 3.0	ナデ ミガキ、ナデ	桂 10VR H H	雲母、石英	額部外側は1段をなす
# - 172	# · #	# 脇部	残高 3.6	點打付突端、ナデ ナデ	桂 7.5VR 10VR 5/4			
# - 173	# · #	# #	残高 4.0	ハラ描き、沈線 ナデ	桂 SYR 8/6 H	雲母		
# - 174	# · #	# 脇部	残高 2.5	列点刺突、ハケ、ナデ ナデ	桂 10VR 2/3 桂 7.5VR 6/6	雲母		
# - 175	# · #	# #	残高 4.3	列点刺突、ハケ ハケ、ナデ	桂 10VR 2.5Y 8/3	雲母		
# - 176	# · #	# 脇部	残高 3.3	ハラ描き、沈線 不明	桂 7.5VR 8/6 桂 10VR 7/3			
# - 177	# · #	# #	残高 2.8	ハラ描き、ナデ ナデ	桂 SYR 8/6 H	雲母、チャート		
# - 178	# · #	# 脇部	残高 5.2 底径 6.4	ナデ ナデ	桂 10VR 8/3 桂 SYR 7/6	雲母		
# - 179	# · #	# #	残高 4.1 底径 12.2	不明 ナデ	桂 10VR 7/4 桂 SYR 8/6	雲母、石英、チ ャート		
# - 180	# · #	# 口縁部	口縁 残高 15.2	44.0 沈線、竹管刺突、ナデ 15.2 ハケ、ナデ	桂 7.5VR 6/3 桂 10VR 6/4	雲母		
因21-181	# · #	蓋	口縁部 残高	17.4 4.9	ナデ ミガキ	灰白 10VR 8/2 桂 10VR 7/3	石英	鵝入品か
# - 182	# · #	# #	口縁 残高	17.8 3.2	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	桂 SYR 7/6 H	雲母	
# - 183	# · #	# #	口縁 残高	15.6 2.9	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	黄灰 2.5Y 6/1 H	雲母	
# - 184	# · #	# #	口縁 残高	21.0 5.5	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	桂 7.5VR 4/3 7/6	雲母	
# - 185	# · #	口縁部	残高 2.0	ハケ、ナデ ハケ	桂 7.5VR 8/4 桂 SYR 8/6	雲母、石英		
# - 186	# · #	# #	残高 2.8	ハケ ナデ	桂 7.5VR 2/6 SYR 8/8			
# - 187	# · #	# #	残高 3.0	ハケ ナデ	桂 SYR 8/6 H	雲母		
# - 188	# · #	遺	口縁部 残高	15.0 3.8	朝日、ハケ ハケ、ナデ	桂 SYR 7/6 H	雲母、石英	
# - 189	# · #	# #	口縁 残高	15.0 3.3	朝日、ハケ、ナデ ナデ、ハケ	桂 SYR 7/8 H	石英、雲母	
# - 190	# · #	# #	口縁 残高	17.0 2.0	朝日、ハケ、ナデ ナデ、ハケ	桂 7.5VR 6/3 H	雲母	
# - 191	# · #	口縁部	残高 3.4	朝日、ナデ 不明	桂 7.5VR 7/6 H	石英		
# - 192	# · Ⅲd層	# #	残高 2.6	朝日 不明	桂 SYR 8/6 7.5VR 7/6	雲母		
# - 193	# · ST 1	# #	残高 1.7	朝日、ナデ ナデ	桂 SYR 8/6 H	雲母		
# - 194	# · I層	# #	残高 2.2	刺目、ナデ ナデ	桂 SYR 8/6 H	石英、雲母		
# - 195	#	# #	残高 1.6	刺目、不明 ナデ	桂 7.5VR 7/6 H	石英、雲母		
# - 196	# · ST 1	# #	残高 1.0	刺目、不明 不明	桂 7.5VR 7/6 H	石英		

標本番号	出土地点 ・層位	岩種	法面 (cm)	丈程・調整 外面 内面	色調 外 内	地質	備考	
図21-197	III区・1層	碧玉岩 輝石	口徑 残高 6.5	24.0 1.6 明	刻目、ハケ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/4	雲母、石英	
〃 - 198	〃 - ST 1	〃	口徑 残高 6.5	28.0 6.5 明	刻目、ハケ、ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/4	雲母	
図22-199	〃 - "	〃	底部	残高 底径 8.0	9.1 5.4 不明	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母
〃 - 200	〃 - "	〃	残高 底径 7.0	8.0 5.0 明	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母	
〃 - 201	〃 - "	〃	残高 底径 7.8	8.0 7.0 明	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母	
〃 - 202	〃 - "	〃	残高 底径 7.8	4.8 6.0 明	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/4	雲母	
〃 - 203	〃 - "	〃	残高 底径 6.0	4.0 6.0 明	不規 不明	緑 SVR 10VR 7/6	雲母、石英	
〃 - 204	〃 - "	〃	残高 底径 7.6	4.6 9.6 明	ハケ、ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/3	雲母、石英	
〃 - 205	〃 - "	〃	残高 底径 7.6	3.6 6.0 明	ハケ、ミガキ?	緑 SVR 10VR 2-SVR 8/4	雲母、チャート	
〃 - 206	〃 - "	〃	残高 底径 7.8	7.3 7.8 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 2-SVR 6/6	雲母	
〃 - 207	〃 - "	〃	残高 底径 6.8	5.2 6.8 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 8/3	雲母、石英	
〃 - 208	〃 - "	〃	残高 底径 8.0	3.6 6.0 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 7-SVR 7/4	雲母、チャート	
〃 - 209	〃 - "	〃	残高 底径 7.2	5.8 7.2 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 5/4 7/4	雲母	
〃 - 210	〃 - "	〃	残高 底径 7.0	3.4 7.0 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母、石英、チ アート	
〃 - 211	〃 - "	〃	残高 底径 7.0	3.8 7.0 明	ナデ ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母、石英	
〃 - 212	〃 - "	〃	残高 底径 8.0	3.4 8.0 明	ナデ ハケ、ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母、内面タル ル付着	
〃 - 213	〃 - 口層	〃	残高 底径 8.0	3.3 8.0 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 2/1	石英	
〃 - 214	〃 - ST 1	〃	残高 底径 5.0	1.0 5.0 明	ナデ ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母、石英	
〃 - 215	〃 - "	〃	残高 底径 5.2	2.8 5.2 明	ナデ ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	石英	
〃 - 216	〃 - "	〃	残高 底径 5.1	3.3 5.1 明	ナデ ナデ	緑 SVR 10VR 7/4	雲母、チャート	
〃 - 217	〃 - "	〃	残高 底径 7.8	1.6 5.0 明	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 8/4 7/6	雲母、石英	
〃 - 218	〃 - "	〃	残高 底径 7.0	1.8 7.0 ナデ?	ナデ ナデ?	緑 SVR 10VR 8/6 6/6	雲母	
〃 - 219	〃 - "	〃	残高 底径 7.6	3.2 7.6 ナデ	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 4/5 7/6	雲母、チャート	
〃 - 220	〃 - 口層	〃	残高 底径 9.0	2.7 10.2 ナデ	ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	緑 SVR 10VR 8/6 7/6	雲母、チャート 石英	
図23-221	〃 - ST 1	蓋	完形	口徑 底径 6.4	21.4 10.2 6.4 ミガキ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母	
〃 - 222	〃 - "	〃	裾部	残高 底径 5.2	2.3 8.3 ミガキ ミガキ	緑 SVR 10VR 8/6	雲母	
〃 - 223	〃 - "	〃	口部	口徑 底径 3.2	24.0 10.2 3.2 ミガキ、ナデ ミガキ、ナデ	緑 SVR 10VR 8/4	雲母	
〃 - 224	〃 - "	跡	完形	口徑 底径 5.2	8.2 8.3 ミガキ ミガキ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母	
〃 - 225	〃 - "	口部	残高 底径 5.2	3.9 6.4 ミガキ	不規 ミガキ	緑 SVR 10VR 5/4 7-SVR 8/4	雲母、石英	
〃 - 226	〃 - "	〃	残高 底径 6.0	3.0 6.0 ナデ ナデ	ハケ ナデ	緑 SVR 10VR 7/6	雲母、石英	
図25-227	〃 - 1層	〃	底部	残高 底径 6.0	2.5 6.0 ナデ ナデ	緑 SVR 10VR 8/6	雲母、石英	

標識番号	出土地点 ・層位	器種	法華 (cm)	文様・調査	外版 内面	色調	内面 外版	胎土	備考
国25- 228	III区・Ⅲa層	弥生土器 甕	口縁部 残高 3.2	ナデ ナデ	ED4 7.SYR 5/6 7.SYR	灰	7.SYR 5/6 7.SYR	雲母, 石英	
〃 - 229	〃 - IIIc層	土師器 甕	口縁部 残高 3.8	不明 不明	ED4 7.SYR 5/6 7.SYR	灰	N N	石英	
〃 - 230	〃 - II層	須恵器 瓶	瓶部 残高 4.0	平行タタキ ナデ	灰 N N	灰 N N	6/1 5/1		
〃 - 231	〃 - I層	〃	〃	平行タタキ ナデ	灰 N N	灰 N N	6/1 5/1		
〃 - 232	〃 - II	〃	〃	平行タタキ ナデ	灰 N N	灰 N N	6/1 5/1		
〃 - 233	〃 - II層	青磁 甕	口縁部 残高 13.0	蓮瓣文 無文	ED-灰 10YR 5/6	灰 N N	6/1 5/1		
〃 - 234	〃 - II	〃	瓶部 残高 4.5	蓮瓣文 無文	ED-灰 5G 5/6	灰 N N	7/1 5/1		
〃 - 235	〃 - IIc層	〃	口縁部 残高 11.0	無文 無文	灰白 5Y 5/6	灰白 N N	7/2 6		
〃 - 236	〃 - II層	曲唇 瓶	瓶部 残高 2.6	ナデ ナデ	赤褐 10R 4/3	赤褐 N N	4/3 5/1		
〃 - 237	〃 - SAI-P1	須恵器 甕	瓶部 残高 4.2	ナデ 回転ナデ	ED4 SYR 4/3 10YR 5/3	灰 N N	石英		
〃 - 238	〃 - "	〃	〃	ナデ ナデ	ED4 SYR 4/3 2.SYR 5/3	灰 N N	石英		
国31 - 242	IV区・II層	弥生土器 甕	口縁部 残高 2.0	刻目, ナデ ナデ	ED SYR 6/6	灰 N N	雲母		
〃 - 243	〃 - "	土師器 甕	口縁部 残高 3.1	不明 不明	ED4 7.SYR 8/4	灰 N N	石英, チャート		
〃 - 244	〃 - SK 1	弥生土器 甕	口縁部 残高 2.2	ミガキ ナデ	後 SYR 6/6	灰 N N	雲母		
〃 - 245	〃 - "	〃	瓶部 残高 2.0	ミガキ ミガキ	後 SYR 6/6	灰 N N	雲母, 石英		
〃 - 246	〃 - P 1	上部器 口縁部	瓶部 残高 2.7	ナデ ナデ	後 SYR 7/6 10YR 5/3	灰 N N	雲母		
〃 - 247	〃 - II層	甕	瓶部 残高 3.0	ナデ 不明	後 SYR 8/4	灰 N N	雲母		
〃 - 248	〃 - SK 1	高环 甕	瓶部 残高 2.8	ナデ ナデ	後 7.SYR 7/6	灰 N N	雲母		
〃 - 249	〃 - II層	〃	口縁部 残高 4.2	平行タタキ ナシ, ナデ	ED4 7.SYR 7/3 5/4	灰 N N			
〃 - 250	〃	青磁 甕	口縁部 残高 2.2	蓮瓣文 無文	ED-灰 7.SYR 8/1	灰 N N			
〃 - 251	〃 - II層	〃	瓶部 残高 1.9	無文 無文	ED-灰 2.SYR 5/1	灰 N N			
〃 - 252	〃 - SH4-P1	櫻花紋 口縁部	瓶部 残高 1.5	無文 ヘラ括き文	ED-灰 7.SYR 7/1	灰 N N			
〃 - 253	〃 - I層	須恵器 口縁部	瓶部 残高 3.5	蓮り口 ヨコナデ	灰赤 2.SYR 5/2	灰赤 N N			

図 版



国見遺跡遠景（東より）



国見遺跡近景（南西より）



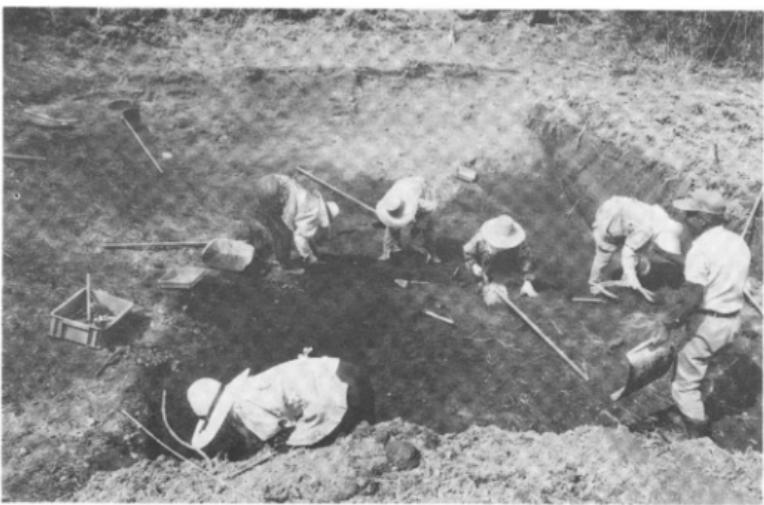
国見遺跡近景（南東より）



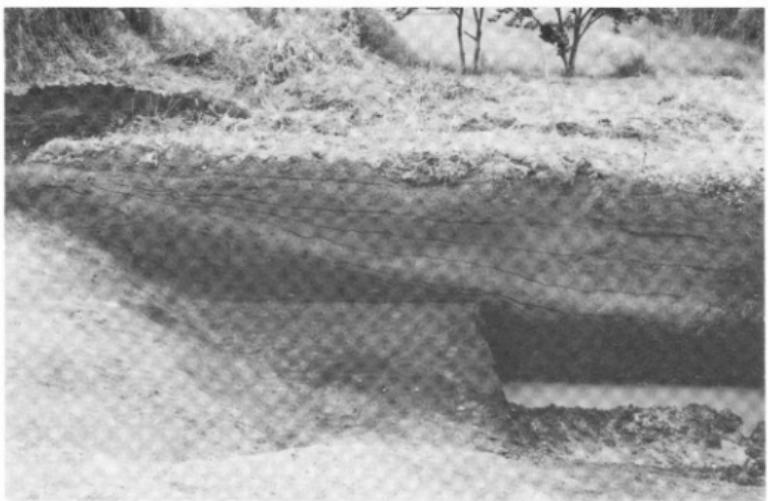
同 上



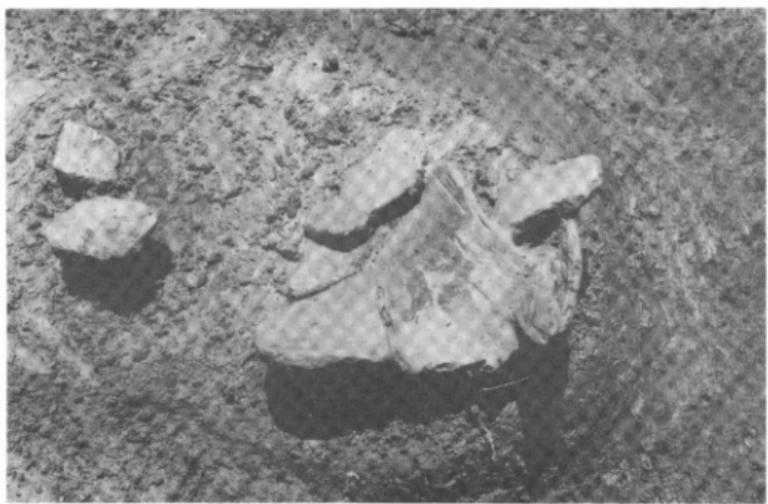
I区 調査前近景（南より）



I区 調査風景（南より）



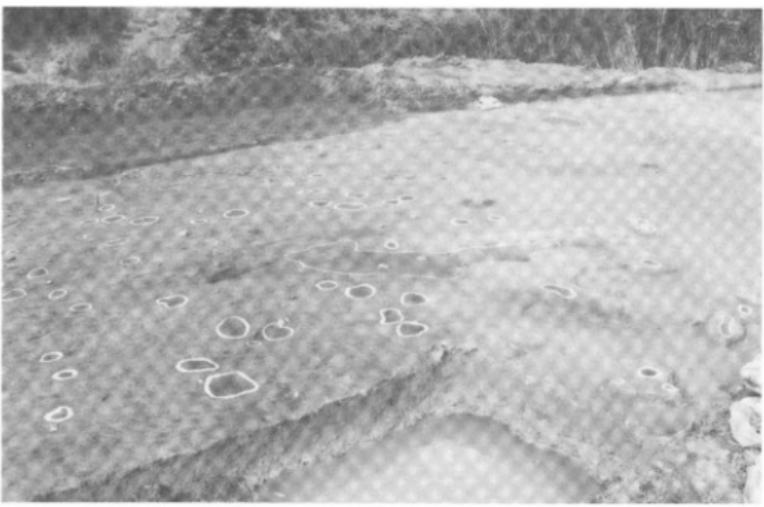
I 区 東壁土層断面（西より）



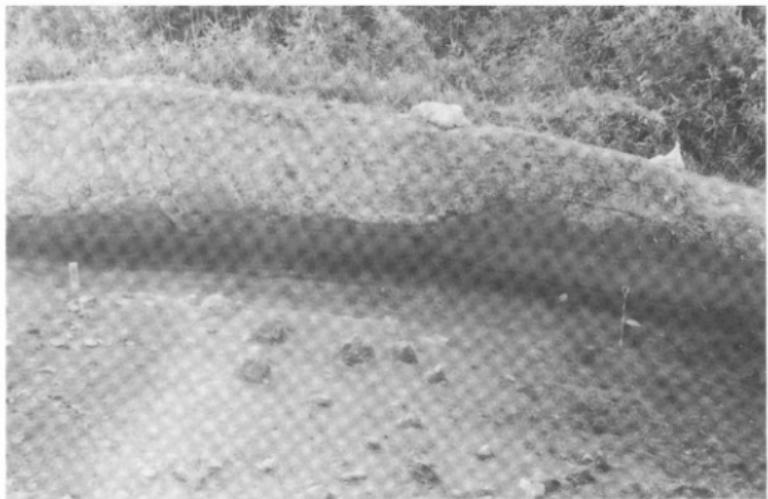
I 区 IV層 土師器（5）出土状態



II区 調査前近景（南より）



II区 遺構検出状態（南西より）



II区 西壁土層断面（東より）



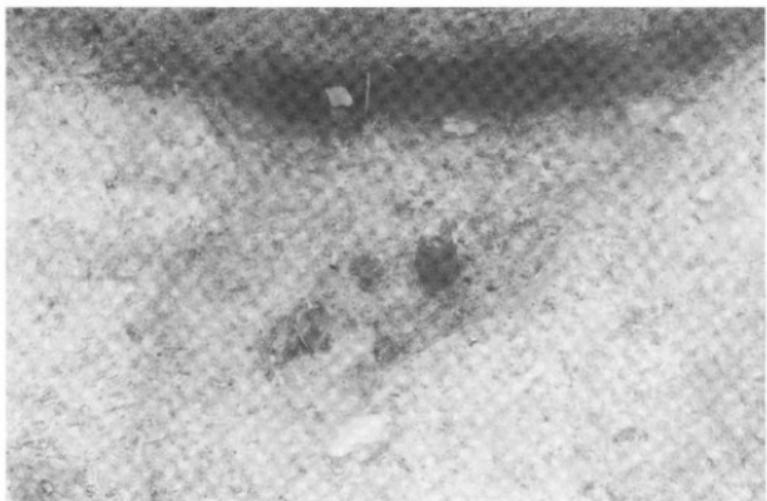
II区 北壁土層断面（南より）



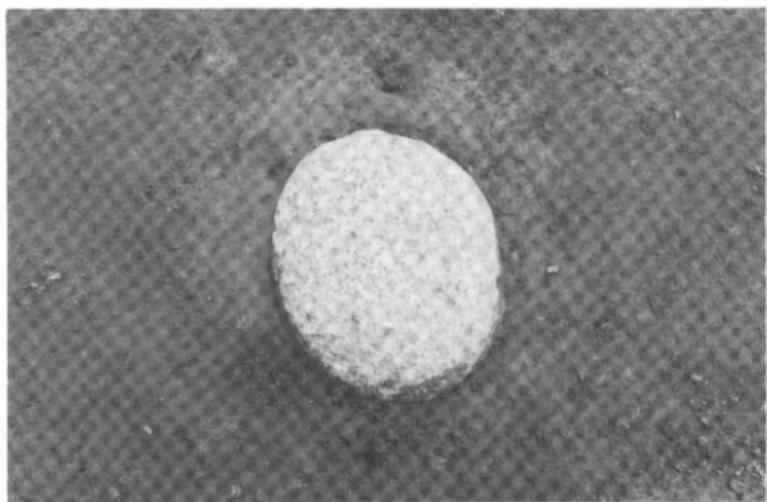
II区 集石遺構検出状態（東より）



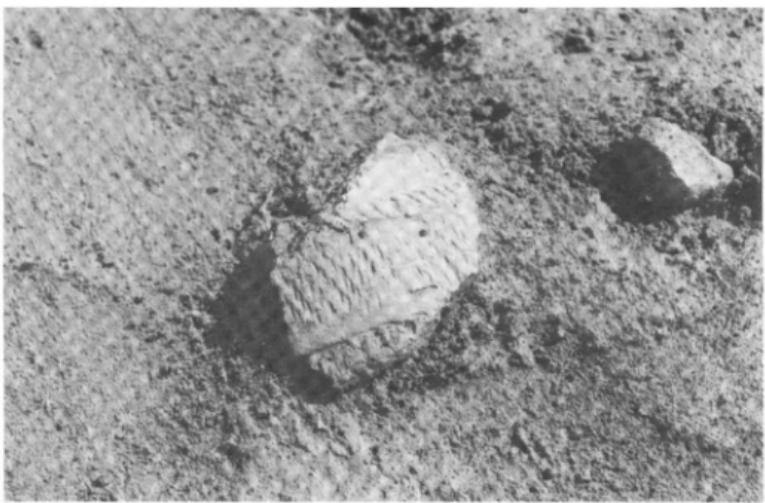
II区 集石遺構 S×2 検出状態（北より）



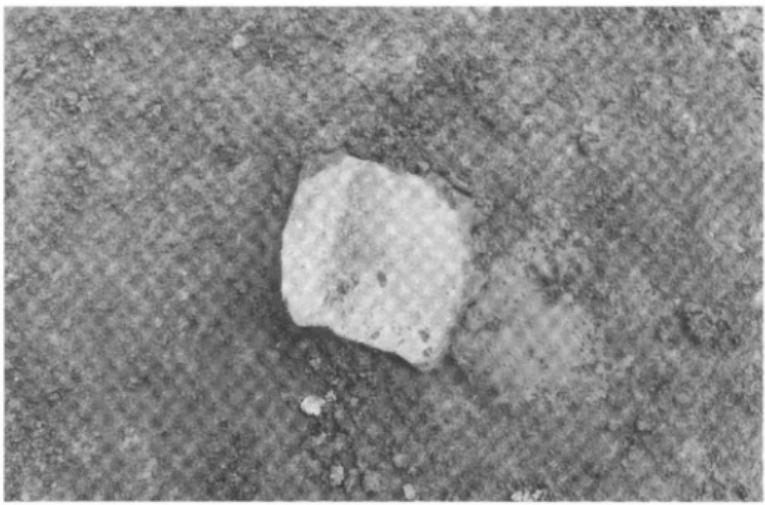
II区 土坑状遺構SK1 遺物出土状態（東より）



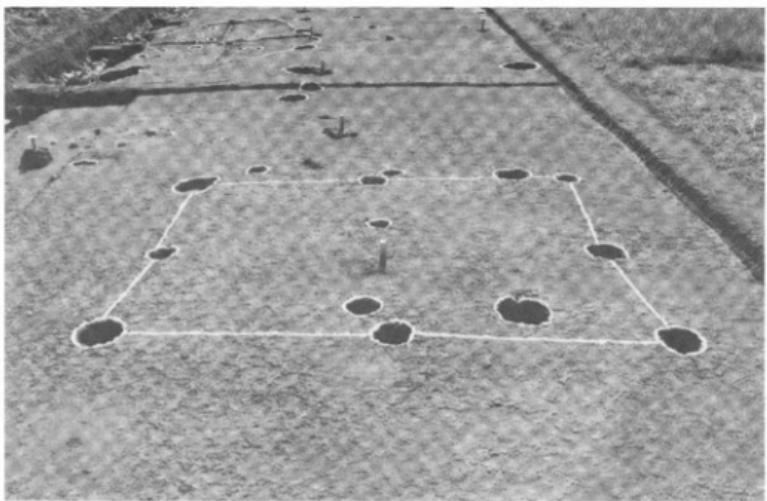
II区 IIIb層 印石(130) 出土状態



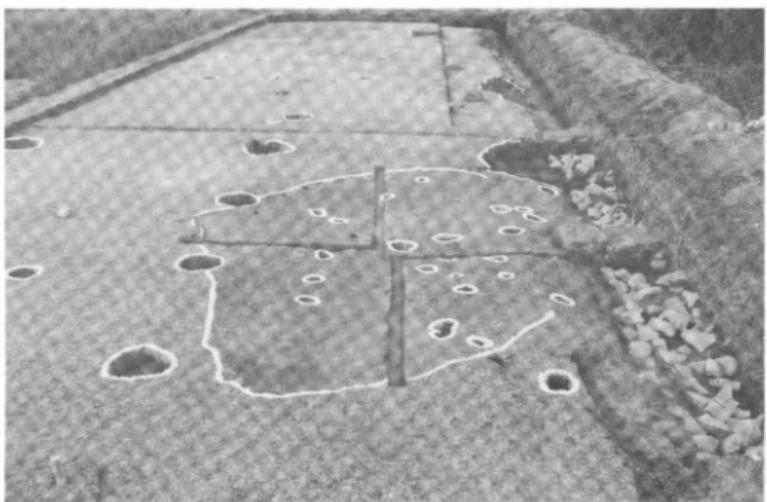
II区 IIIb 磁浦文土器(18) 出土状態



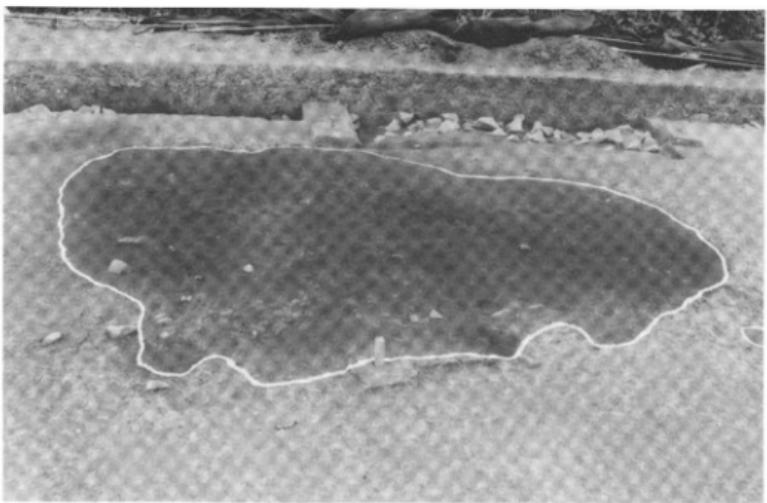
同 上 (94)



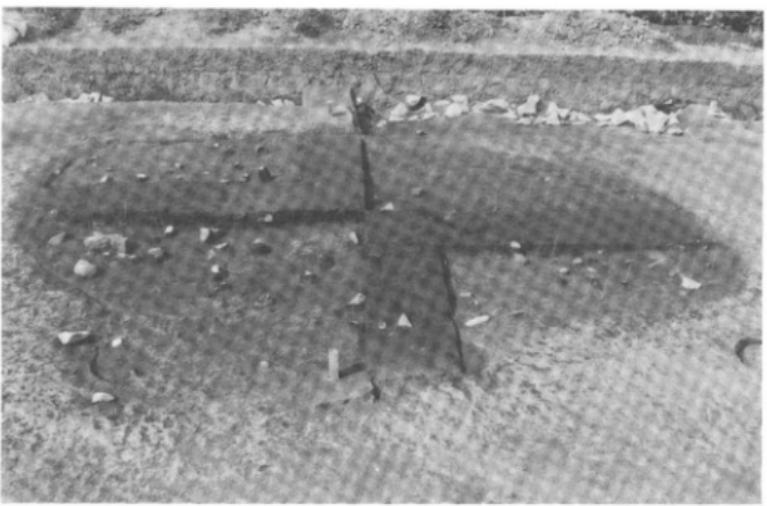
III区 及び掘立柱建物跡 S-B 1 完掘状態（西より）



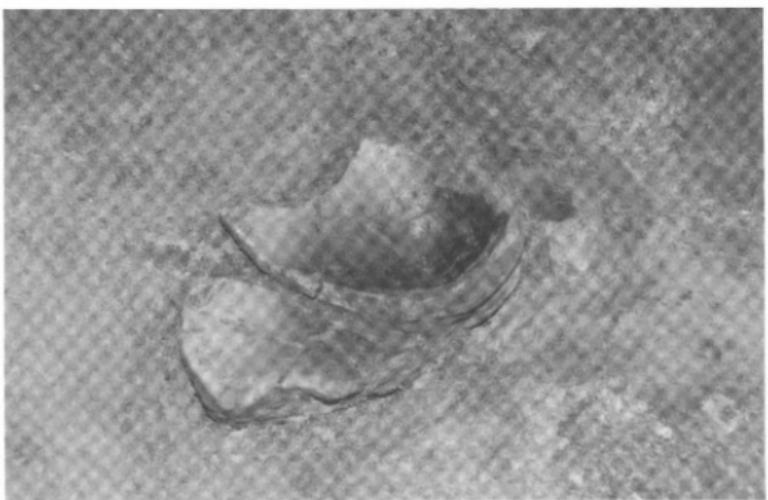
III区 及び住居址 S-T 1 完掘状態（東より）



III区 住居址 S T 1 棘出状態（南より）



III区 住居址 S T 1 遺物出土状態（南より）



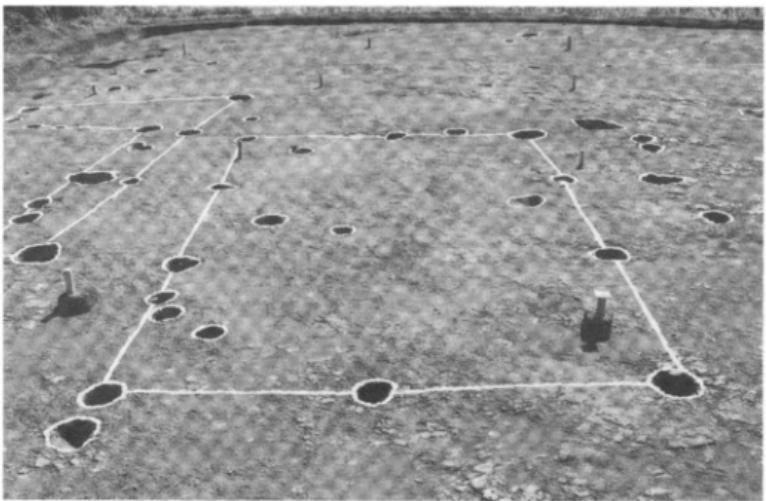
III区 住居址 S T 1 弥生土器 (221) 出土状態



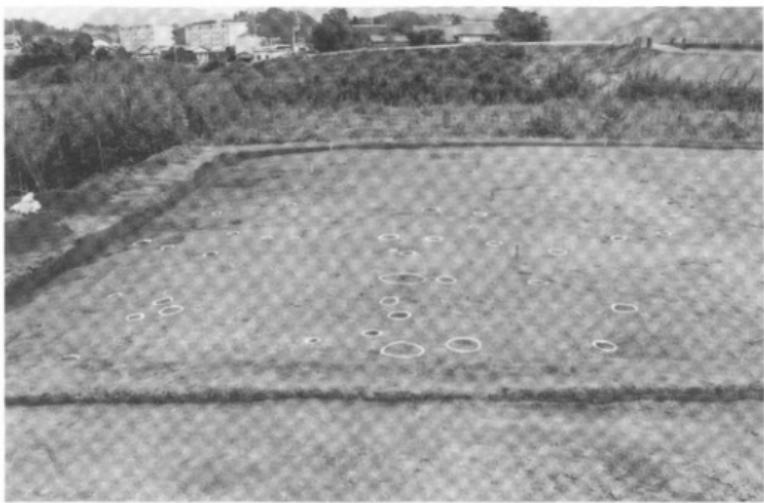
III区 土坑状遺構 S K 1 堆積土層断面 (東より)



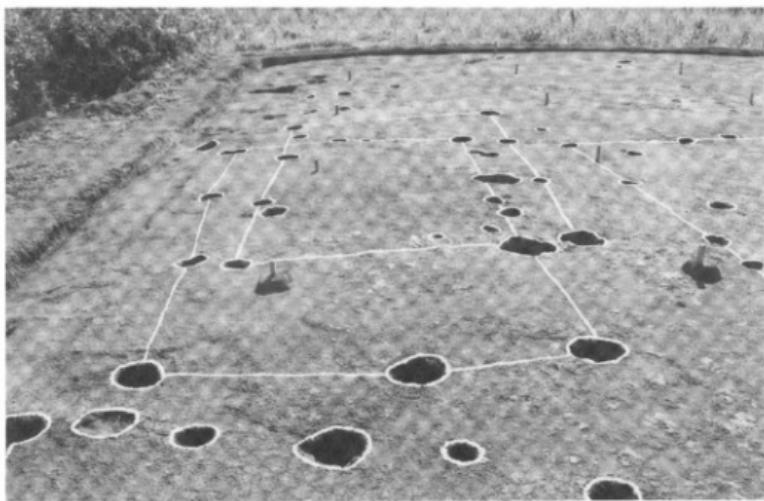
IV区 完掘状態（西より）



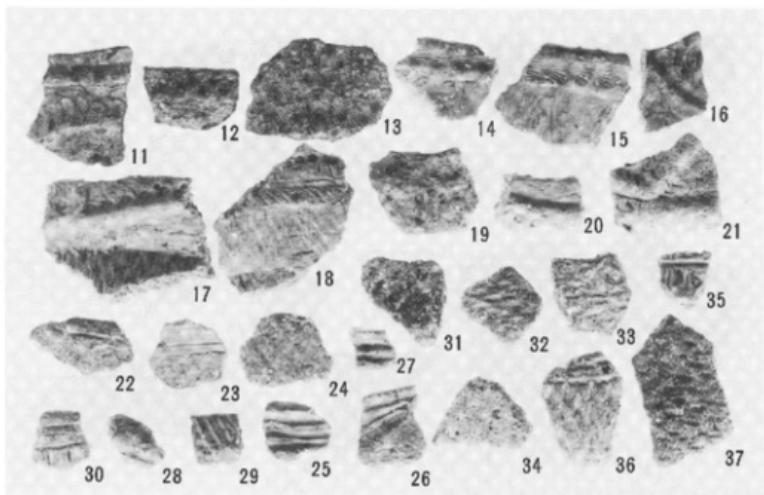
IV区 掘立柱建物跡 S B 2 完掘状態（西より）



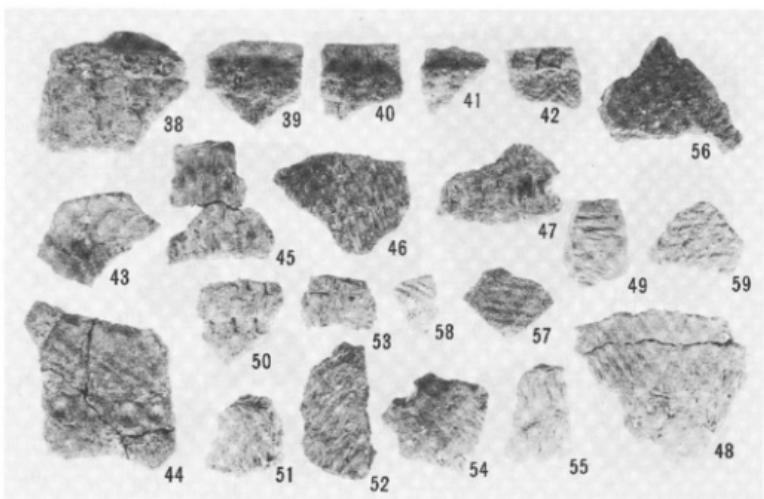
IV区 堀立柱建物跡SB 3・4 棲出状態（西より）



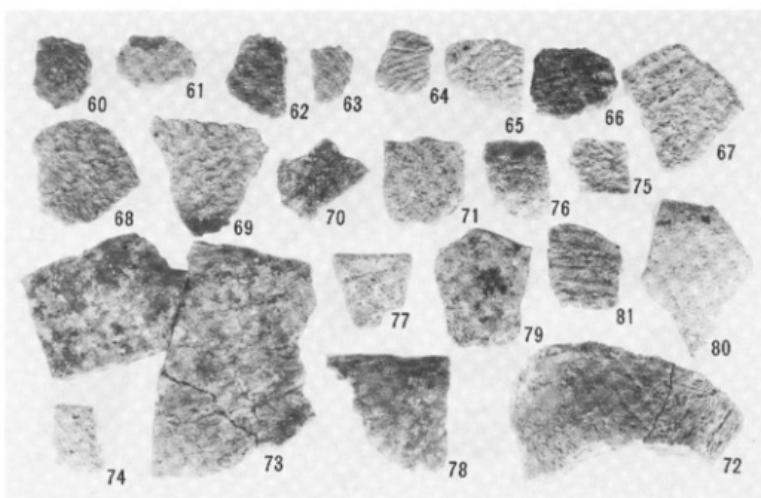
IV区 堀立柱建物跡SB 3・4 完掘状態（西より）



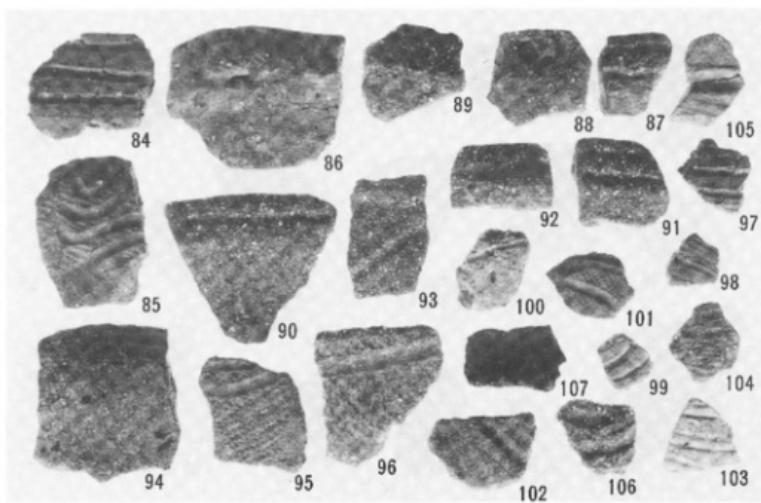
出土遺物（縄文土器）



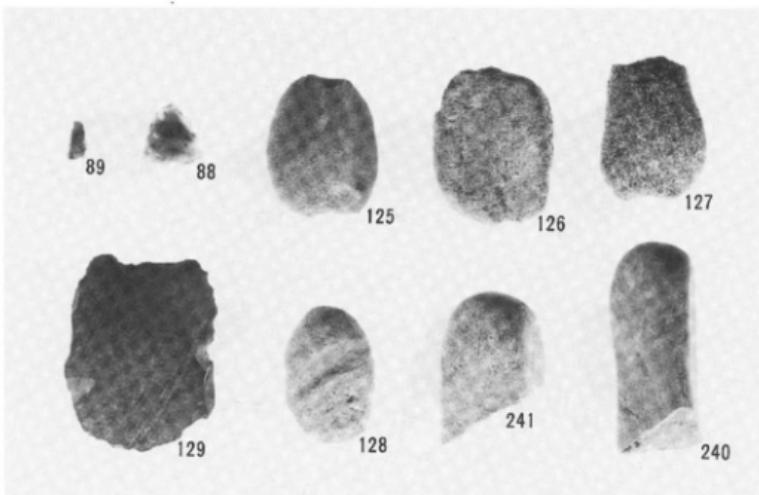
同 上



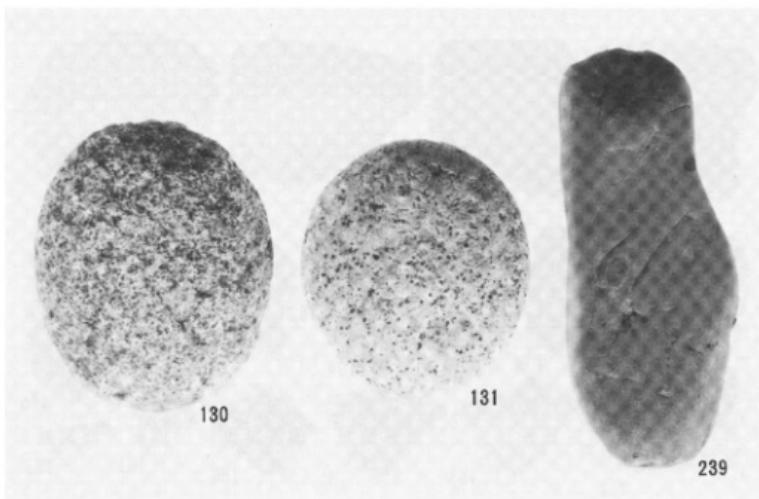
出土遺物（縹文土器）



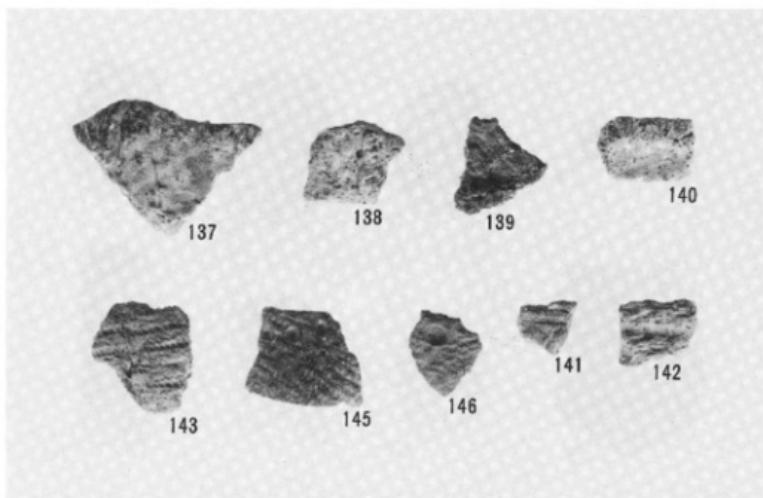
同上



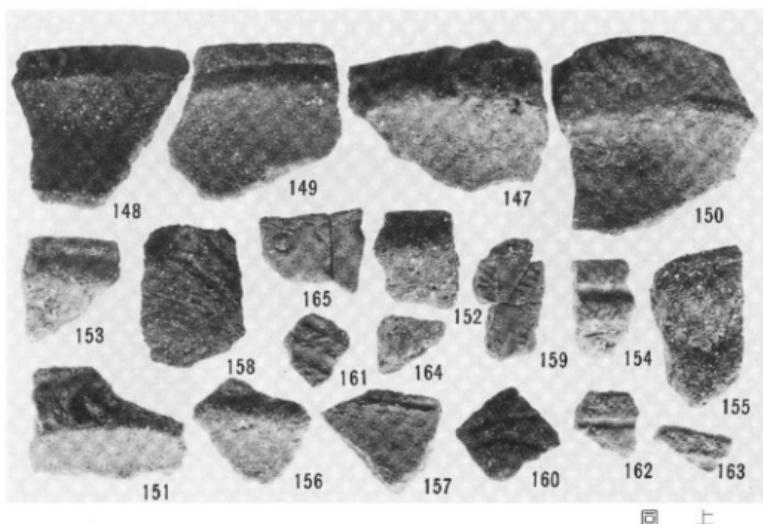
出土遺物（石器）



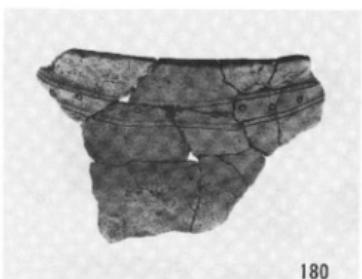
同 上



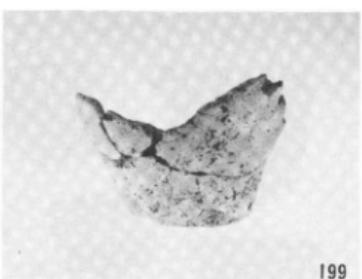
出土遺物（繩文土器）



同 上



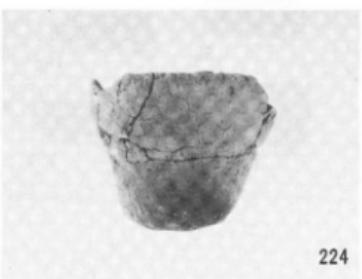
180



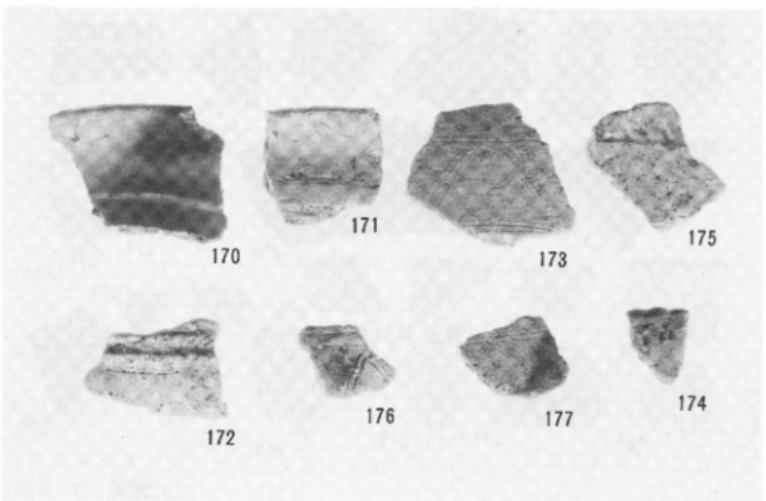
199



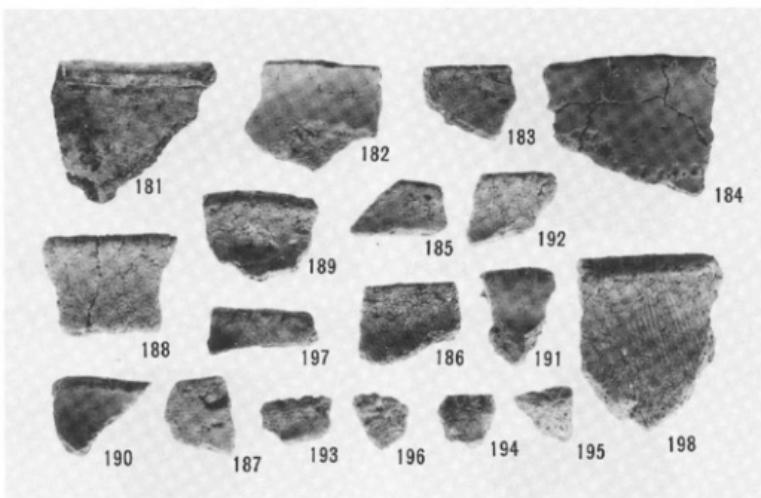
221



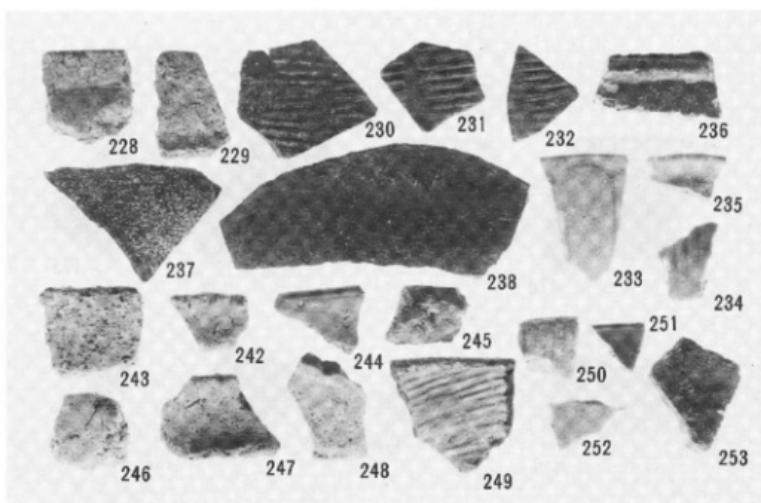
224



出土遺物（赤生土器）



出土遺物（弥生土器）



出土遺物（III・IV区）

高 知 県 中 村 市

国 見 遺 跡

編集・発行 中村市右山五月町 8-34

中 村 市 教 育 委 員 会

印 刷 中 村 市 山 手 通 42

株式会社 文化堂印刷所

1994. 3